

上三條河原遺跡

中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事に伴う発掘調査報告書

2022.3

山梨県

東海旅客鉄道株式会社

上三條河原遺跡

中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事に伴う発掘調査報告書

2022.3

山梨県

東海旅客鉄道株式会社



遺跡の全景(西より)



遺跡の全景(北東より)



発掘調査で出土した土器（上：高坏 左下：坏・碗 右下：壺）

上三條河原遺跡のあらまし

この地域は、釜無川や笛吹川などの氾濫原(扇状地)です。これまで発見された遺跡も少ないとことから、人々にとって住みにくいところと考えられてきました。

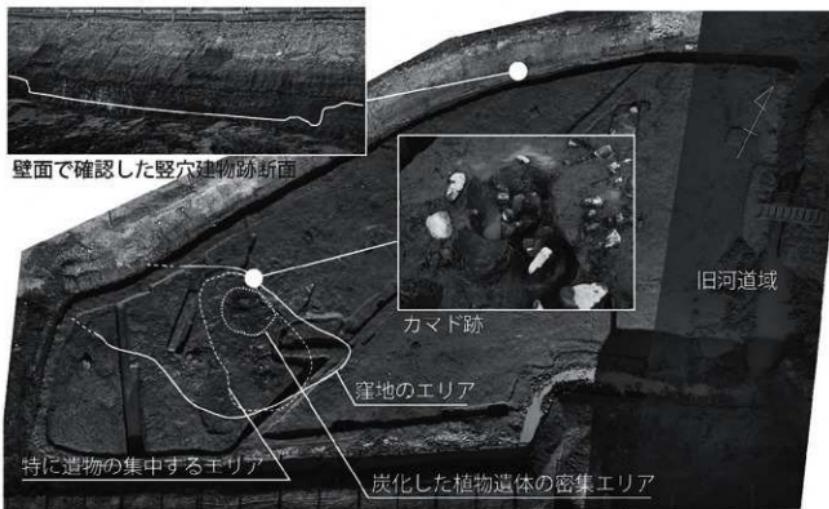
しかし、近年、上窪遺跡、平田宮第2遺跡、小井川遺跡の発掘調査により平安時代(古代)から人々が住み、条里制(計画的な水田)も導入されるなど、山梨の古代史を考えるうえでとても重要な地域であると再認識されています。

上三條河原遺跡は、中央新幹線建設事業のために実施した試掘調査で発見された新たな遺跡です。特に重要なのは、この地区で平安時代より古い古墳時代の集落が見つかったことです。

残念なことに、調査地点周辺は氾濫原という地理的環境を受け地下水位が高く、まるで田んぼの中を掘っているような発掘調査となり、堅穴建物跡など不明瞭な成果となりました。

しかし、1,300点以上の土器が出土したり、カマドや土坑など人々の生活の欠かせない施設も発見されました。

今後も、周辺地域での発掘調査で考古学的資料が増え、より地域の特性が明らかになるので注目してください。



発掘調査のようす



出土した古墳時代の土器

序 文

本書は、中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事事業に伴い、2021年度（令和2年度）に実施した上三條河原遺跡の発掘調査成果をまとめた報告書です。

本遺跡は、甲府盆地の南、中央市上三條地区にあります。この地域は盆地の南端にあたり、釜無川、笛吹川他大小河川の影響を受けてきた湿地帯であります。度重なる水害を受けてきた結果、埋蔵文化財包蔵地の確認が困難な地域でありますが、中央新幹線建設に伴う試掘調査で新たに発見された遺跡です。

特に、出土した遺物から、古墳時代の集落遺跡であることが判明したことは、周辺地域では初めての事例であり、盆地南部における古代の土地利用を知る事例と評価できます。

一方、調査時には出水も激しく、遺構を明確に捉えられない課題もありました。

山梨県は古来から水害の多い地域であり、過去の人々は生命や財産を守るために土地を選びながら生活を守ってきました。

上三條河原遺跡は、水害と闘いながら発展してきた地域の歴史を、今日に伝える貴重な文化財と評価できるでしょう。

本書が、今後の上三條河原遺跡の保護、地域の歴史学習や研究のために、多くの方に御活用いただければ幸いです。

最後に、今回の発掘調査及び調査報告書の刊行に当たり、御理解と御協力をいただいた関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

2022年3月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 西川 秀之

例　言

- 1 本書は、山梨県中央市上三条字河原 252-2, 946-3 に所在する上三條河原遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事に伴う事前調査であり、東海旅客鉄道株式会社からの委託を山梨県観光文化部が受け、山梨県埋蔵文化財センターが発掘調査・整理作業・報告書作成を実施したものである。
- 3 調査にあたった組織は次のとおりである。

　調査主体 山梨県観光文化部　調査機関 山梨県埋蔵文化財センター
　所長 佐久間浩之（令和2年度）、西川秀之（令和3年度）
　調査担当 調査研究課 久保田健太郎（主任・文化財主事）、史跡資料活用課
　上野桜（主任・文化財主事）、小池準一（会計年度任用職員）

- 4 発掘調査機関及び整理作業は以下のとおりである。

　発掘調査 令和2年（2020年）10月5日～令和2年11月30日
　基礎的整理作業 令和3年（2021年）1月21日～令和3年3月26日
　本格的整理作業 令和3年（2021年）9月1日～令和4年（2022年）2月25日

- 5 本書の編集は上野が担当した。
- 6 本書に掲載した遺構写真及び作業風景写真及び報告書掲載遺物は、久保田、上野が撮影した。
- 7 本書に掲載した遺跡の景観写真、空中写真は株式会社シン技術コンサルに委託し、撮影した。
- 8 本書に掲載した図版、遺物の実測図の一部は、株式会社シン技術コンサルに委託し、掲載した。
- 9 本書に掲載した遺物写真の一部は、アオヤギフォトスタジオ、株式会社シン技術コンサルに委託し、撮影した。
- 10 本報告書に係る出土品及び記録図面・写真・出土遺物・デジタル化したデータ等は、一括して山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。
- 11 発掘調査及び整理作業においては次の方々・機関に御協力、御教示を賜った。記して謝意を表す次第である。

（発掘作業員）

　飯室恵子、川住資農夫、小山春美、鷹野賢次、鷹野貴彦、鷹野武、望月厚子、望月栄子、松上健（整理作業員）

　土井みさほ、新津多恵、渡辺麗子

凡 例

- 1 遺構・遺物図面の縮尺は、各図中に示した。縮尺を示していないものは任意の大きさである。
- 2 本報告書中地形図、測量図、遺跡分布図は、国土地理院発行の 1/25,000地図を利用した。また、地理的専門用語の使用は同院で使用する用語に準拠した。
- 3 遺物実測図は口径および底径が復元できるもの、時期が推定できる文様をもつものを基準に選定した。
- 4 遺構断面図の左側基点に付した数字は標高(m)を表す。
- 5 土器観察表中及び土層注記の色調名は、農林水産省水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』1990年度版による。
- 6 遺構の写真はニコンD 850 デジタル一眼レフカメラで撮影した。

目 次

第1章 経過	
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の目的と課題	1
第3節 発掘作業の経過	2
第4節 整理作業の経過	2
第2章 遺跡の位置と環境	
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	5
第3章 調査の方法と成果	
第1節 調査の方法	9
第2節 基本層序	10
第3節 発見した遺構	12
第4節 発見した遺物	22
第4章 総括	40

写真図版

挿入図版

第1図 地形分類図（国土地理院）
第2図 事業位置図
第3図 事業位置図（拡大）
第4図 周辺の遺跡分布図
第5図 近代土地利用状況図
第6図 調査区配置図
第7図 基本層序
第8図 遺構配置図
第9図 遺構配置図（ポイント入り）
第10図 カマド跡実測図
第11図 土坑実測図（1～4号）
第12図 堆積状況図①
第13図 堆積状況図②
第14図 堆積状況図③
第15図 遺物平面・垂直分布図（全体）
第16図 遺物平面・垂直分布図（部分）
第17図 遺物接合関係図①
第18図 遺物接合関係図②
第19～30図 遺物実測図①～⑫
第31～34図 遺構写真図版①～④
第35～40図 遺物写真図版①～⑥

表目次

第1表 発掘調査に係る届出等一覧
第2表 周辺の遺跡一覧
第3表 出土遺物観察表

第1章 経過

第1節 調査に至る経緯

上三條河原遺跡の発掘調査は、東海旅客鉄道株式会社が実施する中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事に伴うものである。建設工事に先立ち、山梨県中央市上三條地内の事業用地内を対象とした埋蔵文化財試掘調査を令和2年6月1日から19日にかけて実施し、その結果、古墳時代の遺物包含層を確認し、周知の埋蔵文化財包蔵地「上三條河原遺跡」として遺跡台帳に新たに登録した。

試掘調査の結果を踏まえ、東海旅客鉄道株式会社と山梨県観光文化部（文化振興・文化財課、山梨県埋蔵文化財センター）による協議を実施し、建設工事により埋蔵文化財に破壊が及ぶ橋脚部分、約660m²を対象に記録保存のための発掘調査を実施することとなった。

上三條河原遺跡発掘調査にかかる届出等は以下のとおりである。

日付	文書番号	文書名	発信者	受信者
令和2年4月15日		中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する基本協定書	東海旅客鉄道株式会社中央新幹線推進本部中央新幹線建設部長	山梨県知事
令和2年4月28日		令和2年度中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査委託契約書	東海旅客鉄道株式会社中央新幹線推進本部中央新幹線建設部長	山梨県知事
令和2年8月7日		令和2年度中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査委託変更契約書（第1回）	東海旅客鉄道株式会社中央新幹線推進本部中央新幹線建設部長	山梨県知事
令和2年9月13日	中山工事第358号	埋蔵文化財発掘の届出について	東海旅客鉄道株式会社	山梨県知事
令和2年9月30日	文化第2226号	周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について	山梨県知事	東海旅客鉄道株式会社
令和2年10月16日	埋文第689号	埋蔵文化財発掘調査の報告について	山梨県埋蔵文化財センター所長	山梨県知事
令和2年12月4日	文化第2919号	埋蔵文化財の発見について	山梨県知事	南甲府警察署長
令和3年3月18日	埋文第1181号	埋蔵文化財発掘調査の終了について	山梨県埋蔵文化財センター所長	山梨県文化振興・文化財課長
令和3年6月21日		令和3年度中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査委託契約書	東海旅客鉄道株式会社中央新幹線推進本部中央新幹線建設部長	山梨県知事

表1 発掘調査に係る届出等一覧

第2節 調査の目的と課題

上三條河原遺跡が所在する中央市上三條周辺は、古墳時代の埋蔵文化財包蔵地はほとんど確認されていないことから、当該期における土地利用の実態や遺跡形成の成り立ち等を明らかにすることに努めた。

また、出水等の低湿地区域における発掘調査という立地的課題についても、安全かつ適切な調査方法の検討を行いながら発掘調査を進めた。



試掘調査のようす

第3節 発掘作業の経過

発掘調査にかかる作業に先立ち、令和2年9月28日から作業ヤードの仮囲い設置、現場事務所等の施設設置、調査用機材の搬入を行った。10月5日より重機による表土掘削を実施した。調査区の成形にあたっては、法面勾配を35°未満に設定し、排水作業を並行して進めた。10月8日より発掘作業員の任用を開始し、人力による精査作業等を実施した。遺構の調査・記録等の作業は11月中旬までに完了し、11月18日に空中写真撮影を実施した。その後、土壤サンプリング作業等を行い、11月20日から30日かけて重機による埋め戻し作業を実施した。また、埋め戻し作業と並行し、施設・機材・仮囲い等の撤収作業を行い、11月30日までにすべての作業を完了した。



表土掘削状況



出水状況

第4節 整理作業の経過

発掘調査終了後の令和3年1月21日から3月26日まで、基礎的整理作業を行い、報告書刊行に伴う本格的整理作業は令和3年9月1日から令和4年2月25日まで、会計年度任用職員を任用し、整理作業を行った。

基礎的整理は、出土品の洗浄を1月21日から28日、出土品の注記、接合を2月1日から24日、出土品の実測・拓本などを2月25日から3月26日まで実施した。

本格的整理は、出土品の実測を含め、両遺跡の遺構や遺物のデジタルトレース作業を中心に行い、写真撮影委託業務、デジタル図化業務委託、土壤サンプル分析業務委託を実施した。原稿の執筆や図版のレイアウトを行い、令和4年3月18日に発掘調査報告書を刊行した。



デジタルトレース作業状況

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

山梨県は日本列島本州の中央よりやや南東に位置している。周囲を山地に囲繞され、北から時計回りに、関東山地・御坂・道志山地・赤石山脈が連なる。周囲を山々に囲まれた中央に甲府盆地を擁し、その中を笛吹川・日川・荒川・釜無川などの大河川が南西に向かって流れ、富士川となって駿河湾に出る。したがって、遺跡が所在する盆地南部は、扇状地の集合体となり、河川由来の地形がその大半を占める地形となっている。

遺跡の所在する中央市（平成18年2月に旧玉穂町・旧田富町・旧豊富村が合併）上三條地区は、甲府盆地の南側にある。調査地点はJR身延線小井川駅の西約120mの地点である。

地形的には、西側には北から南に向かって流れる釜無川、南側には東から西に向かって流れる笛吹川があり、この主要2河川が合流する三角地帯の内側で、土砂や砂礫が堆積した扇状地（氾濫原）である。

扇状地といつても単純なものではない。釜無川の影響を受け東に湾曲するような微高地や自然堤防が多く観察される。こういった地形は、社会基盤として活用しながら、同時に、荒川に代表される北から南へ流れる大小河川の影響も幾度となく受けている地形であることが過去からの埋蔵文化財の調査成果や旧河道の存在（第1図）から読み取れる。

笛吹川については、流路の変化はあるものの、南側の御坂山地と北側で展開される地形的規制を受け、本遺跡は大きな影響を受けていない。

調査区内の標高は、約251mを測る。調査区を起点に真北2.5km地点（昭和町築地新居地内）の標高は約261m、真南2.5km地点（中央市大田和地内）の標高は約248mを計測できることから、5km間の比高差南北方向に13m傾斜（2.6/1,000m）となる非常に緩やかで、平坦に近い地形でもある。

平成30年以降、盆地南部一帯（笛吹市・甲府市・中央市・南アルプス市・富士川町）で中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事や新山梨環状道路建設事業に伴う試掘調査を実施し、掘削に伴う自噴現象で調査が難航してきた。今回の調査地点も同様に、常に自噴する出水に悩まされた。上述した地形から、調査地点を含む扇状地一帯は地下水位が高く、1m未満でも自噴するところが多くある。

この現象と埋蔵文化財包蔵地の相関関係はより検討していくが、それぞれの遺跡が機能してた時代は微高地や自然堤防など特定の範囲で陸地化し遺跡が形成されたと考えている。

恐らく、環境変化の影響、例えば河床上昇、流路変更、水圧解放の変化など受け、地下水位の上下移動や氾濫を誘発した可能性も含め、基本層序の把握や自然環境を念頭に調査する必要が特に重要な地域と言える。



第1図 地形分類図（国土地理院）

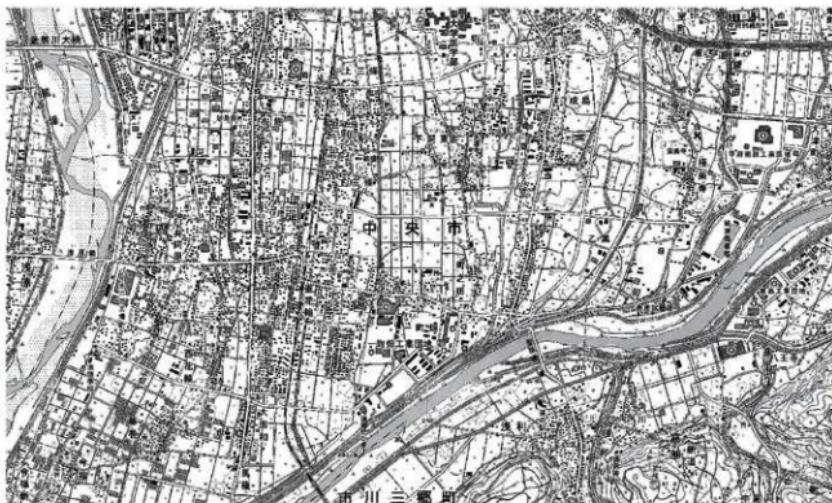
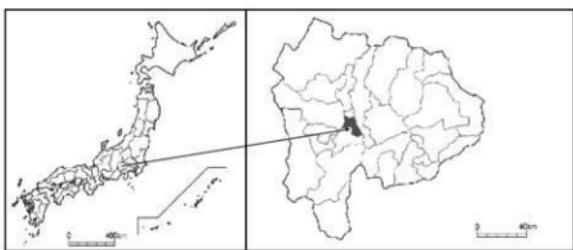


図2 事業位置図



図3 事業位置図(拡大)

第2節 歴史的環境

時代別の概観

調査地点を中心に概ね6km四方で、現在把握されている「周知の埋蔵文化財包藏地」（以下、遺跡という）を表した第4図及び第2表により周辺遺跡を概観する。

旧石器時代、縄文時代の遺跡は現在のところ確認されていない。旧石器時代について、甲府盆地の場合、八ヶ岳東南麓や曾根丘陵など山地や台地に限定され、当該地のような地理的環境の中で発見された事例はない。縄文時代についても今後発見される可能性はあるが、現状では発見されていない。

ただし、ボーリング調査で現地表下10m以上に植物遺体層が把握されるなど土質調査成果もあるので、氾濫による土砂堆積により深深度に埋蔵されたりするなど、旧石器時代、縄文時代の遺跡は存在しないという先入観は持つべきではない。

本遺跡付近で最も古い遺跡は弥生時代である。三宮司遺跡(48)では、弥生時代後期と見られる土器片が採取されている。掲載区域外であるが、釜無川の対岸の南アルプス市(旧甲西町)では、弥生時代中期後半の水田遺構が調査された向河原遺跡や弥生時代後期の大師東丹保遺跡が発掘調査されているが、当該期の遺跡は希薄である。

古墳時代は、6カ所の遺跡が把握され、土器片が採集されている。臼井阿原上河原遺跡(28)、竹之花遺跡(56)、桜林A遺跡(77)、上手新田遺跡(88)、西花輪村北・村間遺跡(89)、延里遺跡(92)のうち、桜林A遺跡以外は釜無川の左岸に並ぶ傾向が読みとれる。

奈良・平安時代は、18カ所の包蔵地が把握されている。分布の特徴として、本遺跡周辺や国母地区といった釜無川や笛吹川より内陸に入った範囲に集まる傾向がある。近年では、上窪遺跡(51)、平田官第2遺跡(54)の発掘調査が実施されている。上窪遺跡は、8次にわたる発掘調査が行われ、第5次調査では水田跡や平安時代の建物跡4軒、土坑墓が発見された。土坑墓は、9～10世紀の埋葬状況が良好に検出された本県唯一の事例であり、出土した斎串42点、櫛2点、下駄2点、綿状織維1点、人骨(歯)7点が「上窪遺跡墓跡出土品一括」として、平成30年3月1日に県指定有形文化財(考古資料)となった。

補足的に述べておくが、本県で最も古い莊園は、安和2年(969)「法勝院領目録」に登場する市河莊である。莊園は、巨麻郡九条四市河里、十三町九段三百十歩と記載されている。

その記述から、条里制の地割が調査地周辺にもおよび、上三條地区にも平安時代の遺跡が分布するようになったことが推測できる。

また、現在も調査地点の隣接地で地名として残る「布施」「小井河(小井川)」も注目できる。

布施は、元永2年(1119)の「中右記」に登場し、正応2年(1289)の「勘仲記」、嘉元3年(1305)の「撰錄渡莊目録」にも記述が残る。

小井河は、安元2年(1176)「八条院領目録」に登場する。

このような、莊園の成立と考古学的手法による土地利用の変遷は、最終的には切り離せないが、現状、歴史資料と考古資料を融合させ、歴史景観や文化的地域特性を明示できるまでの成果には至っていない。

そこで近年、周辺地域では平安時代から中世初頭を中心に、集落、水田、畑、墓地、寺城等、新たな遺跡、遺構、遺物が発見され、継続する発掘調査により一層考古資料が充実すると思われる所以、歴史、地形、地質、農業技術、河川技術など学際的に調査研究することで遺跡の捕捉や適切な遺構調査に繋がる事例といえる。

中世近世の遺跡については、95遺跡中84遺跡と劇的に増加する。理由として当該期の遺跡は、氾濫原としての影響を受けていても覆土の堆積が薄かったり、土地利用が近現代にまで連続していることが考えられる。

例えば、昭和5年の測量図をもとに作成した近代土地利用状況図(図5)をみると、明らかに釜無川扇状地の影響を受けて東に張り出すような地形のなか、自然堤防や微高地に道や集落が南北方向に伸びるよう形成されている。このような土地利用は、確実に近世から連続していると言える。

埋蔵文化財包蔵地と氾濫原

本遺跡が位置する一帯は、第4図が示すように釜無川と笛吹川の二大河川の合流点の内側で、度重なる氾濫を受けながら形成された環境である。氾濫による大量の土砂堆積は旧地表を埋没させながら地表を更新していく。その結果、過去から遺跡の補足が困難で、結果的に遺跡が希薄な地帯と考えられてきた。

平成13年(2001)に旧田富町が実施した町内遺跡分布調査及び平成21年に全線を開通させた新山梨環状道路(南部区間)建設事業に伴う試掘確認調査では、それまでの認識を覆す新たな遺跡の発見に至る多くの成果をあげた。

平成30年からの中央新幹線(品川・名古屋間)建設工事に伴う試掘調査では、本遺跡を新たに発見するに至るなど、周辺地域の遺跡数は年々増加することに間違いがない。

そのためには、地理的に自噴地帯であることが試掘調査を難航させたり、変化に富む土砂堆積物が遺跡の発見を迷わせるなど課題も多いので、引き続き複合的な調査研究や調査技術の向上、丹念な試掘調査等が重要である。

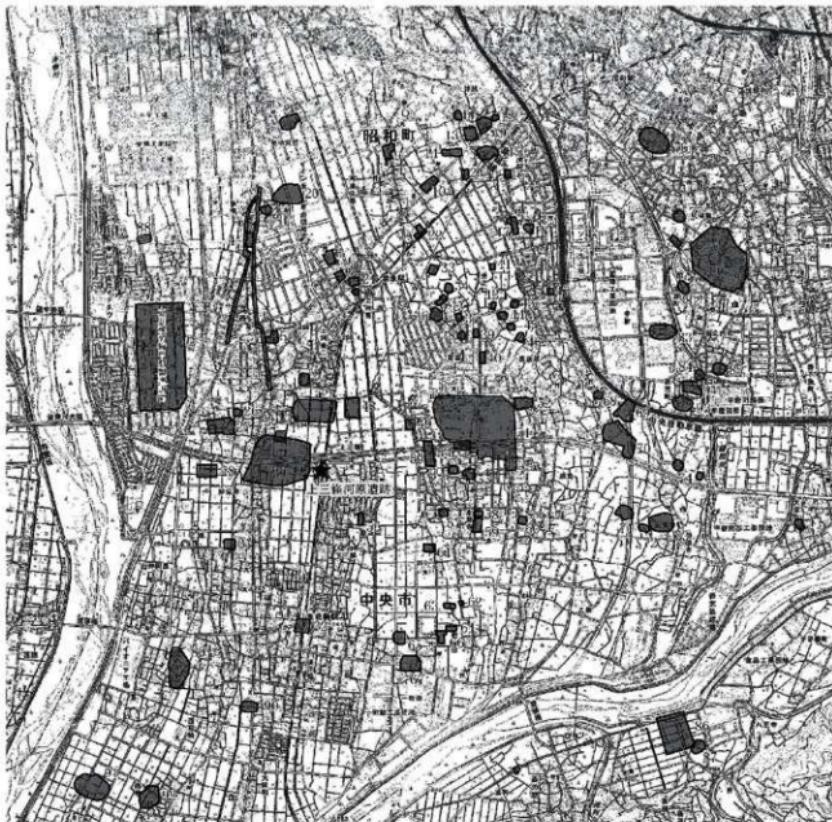


図4 周辺の遺跡分布図

遺跡名	種別	時期	遺跡名	種別	時期
1 かすみ堤	堤防	中世・近世	55 天神木遺跡	散布地	平安・中世・近世
2 村内遺跡	散布地	中世・近世	56 竹之花遺跡	散布地	古墳
3 屋敷浜遺跡	散布地	中世・近世	57 青六遺跡	散布地	中世・近世
4 村前遺跡	散布地	中世・近世	58 脇田遺跡	散布地	中世・近世
5 大林遺跡	散布地	中世・近世	59 下河東屋敷	城郭跡	中世
6 猿野神社前遺跡	散布地	中世・近世	60 向河原遺跡	散布地	中世
7 田之神田遺跡	散布地	中世・近世	61 西反南第1遺跡	散布地	中世
8 宝田遺跡	散布地	中世・近世	62 西反南第2遺跡	散布地	中世
9 連田遺跡	散布地	中世・近世	63 猿野第2遺跡	散布地	中世
10 猿之宮遺跡	散布地	中世・近世	64 猿野第1遺跡	散布地	中世
11 越乃遺跡	散布地	中世・近世	65 田中氏屋敷跡	城郭跡	平安・中世
12 新田遺跡	散布地	中世・近世	66 川久保遺跡	散布地	中世
13 村前遺跡	散布地	中世・近世	67 御朱印屋敷	城郭跡	中世
14 殿屋敷北遺跡	散布地	中世・近世	68 中禪遺跡	散布地	中世・近世
15 佐津平遺跡	散布地	中世・近世	69 二又第1遺跡	散布地	平安・中世・近世
16 川添遺跡	散布地	中世・近世	70 二又第2遺跡	散布地	平安・中世・近世
17 西村前遺跡	散布地	中世・近世	71 巻丁田遺跡	散布地	平安
18 前田遺跡	散布地	中世・近世	72 下河原第1遺跡	散布地	中世・近世
19 越乃東遺跡	散布地	中世・近世	73 下河原第2遺跡	散布地	中世・近世
20 金屋敷遺跡	城館跡	中世	74 北河原遺跡	寺院跡	中世・近世
21 玄賀屋敷	城館跡	中世	75 神明遺跡	散布地	中世・近世
22 川代遺跡	散布地	中世・近世	76 大北耕地遺跡	散布地	中世・近世
23 殿屋敷遺跡	散布地	中世・近世	77 横林A遺跡	散布地	奈良・奈良・平安・中世
24 布施村北遺跡	散布地	中世	78 横林B遺跡	散布地	平安・中世
25 神田遺跡	散布地	中世・近世	79 西耕地B遺跡	散布地	中世
26 冷久保遺跡	散布地	中世・近世	80 西耕地A遺跡	散布地	中世
27 三井右近屋敷跡	城館跡	中世・近世	81 西耕地C遺跡	散布地	中世
28 石臼原上河原遺跡	散布地	古墳・古代	82 墓添遺跡	散布地	奈良・平安
29 中澤五郎右衛門屋敷跡	城館跡	中世	83 砂町遺跡	散布地	平安・中世
30 小井川遺跡	集落	古代・中世・近世	84 金山遺跡	散布地	中世
31 古寺家遺跡	散布地	近世	85 村前遺跡	散布地	中世
32 田中氏屋敷跡	城館跡	中世	86 明治遺跡	散布地	近世
33 中道第1遺跡	散布地	中世・近世	87 地藏田遺跡	散布地	近世
34 中道第2遺跡	散布地	中世・近世	88 上手新田遺跡	散布地	古墳
35 中道第3遺跡	散布地	中世・近世	89 西花輪村北・村間遺跡	散布地	古墳・奈良
36 村西遺跡	散布地	中世・近世	90 西花輪村東遺跡	散布地	近世
37 中道第4遺跡	散布地	中世・近世	91 今福村東遺跡	散布地	近世
38 中道第5遺跡	散布地	中世・近世	92 延里遺跡	散布地	古墳
39 若宮第1遺跡	散布地	中世・近世	93 斎合氏屋敷跡	城郭跡	中世
40 若宮第2遺跡	散布地	平安・中世	94 高室氏館跡	城郭跡	中世
41 今川第1遺跡	散布地	近世	95 村添遺跡	散布地	平安・中世
42 今川第2遺跡	散布地	中世			
43 今川第3遺跡	散布地	平安			
44 今川第4遺跡	散布地	中世・近世			
45 今川第5遺跡	散布地	近世			
46 今川第6遺跡	散布地	中世・近世			
47 桜之田遺跡	散布地	中世			
48 三宮田遺跡	散布地	弥生・平安			
49 中新屋遺跡	散布地	平安・中世			
50 八反田遺跡	散布地	近世・近代			
51 上座遺跡	集落跡・水田跡	平安・中世・近世			
52 川久保遺跡	散布地	近世			
53 平田宮遺跡	散布地	中世			
54 平田宮第2遺跡	水田跡・集落跡・畠跡	平安			

表2 周辺の遺跡一覧

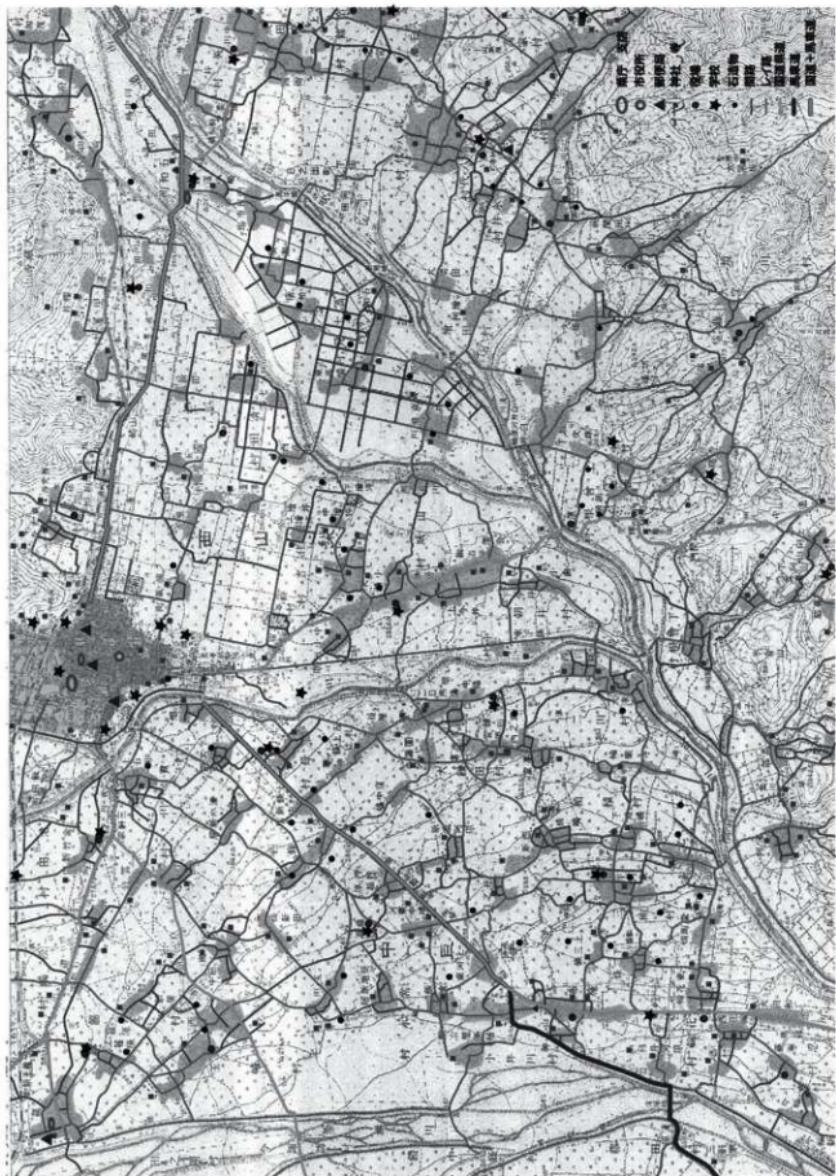


図5 近代土地利用状況図（昭和5年 测量図を加工）

第3章 調査の方法と成果

第1節 調査の方法

(1) 調査区の設定

令和2年6月に実施した試掘調査では、今回調査区を設定した敷地全体を対象に調査し、特に西側2/3程度で古墳時代終末期の遺物を発見した。これを踏まえ、敷地の西側約2/3の範囲を本調査の対象範囲とし（図6）、東側1/3を発生土の仮置き場や排水作業等のスペースとして利用した。

当該地の地盤が砂やシルトを中心に構成されており、出水もみられることから、調査区壁面は垂直ではなく、法面とした。そのため、実際の調査面は図6に示した調査区の範囲よりも狭い。

なお、工事計画では、橋脚の一部が今回の調査対象地外にあたる歩道・車道部分にかかる予定であり、その範囲は今後追加調査を実施する必要がある。

(2) 掘削と各種記録

重機による表土掘削は試掘調査の結果に基づいて遺物を包含する黒色細粒砂層（第2節基本層序の9層）の上面までとし、その後は人力にて掘削した。掘削した表土は中央市内の他の中央新幹線建設用地内に仮置きし、調査終了後に全て埋め戻した。調査地点は出水が著しいことから、調査期間中休みなく排水する必要があった。掘削底面の外周に排水用の溝を掘削し、調査区北東隅の釜場に集水してポンプアップし、ノッチタンクにて砂泥を沈殿させた後、調査区外へ排水した。

出土遺物は光波測距儀により三次元位置を記録した。遺構の平面図や断面図は造り方測量による手作業の作図を併用した。また、写真撮影により各種出土状況や土層断面、作業風景を記録した。

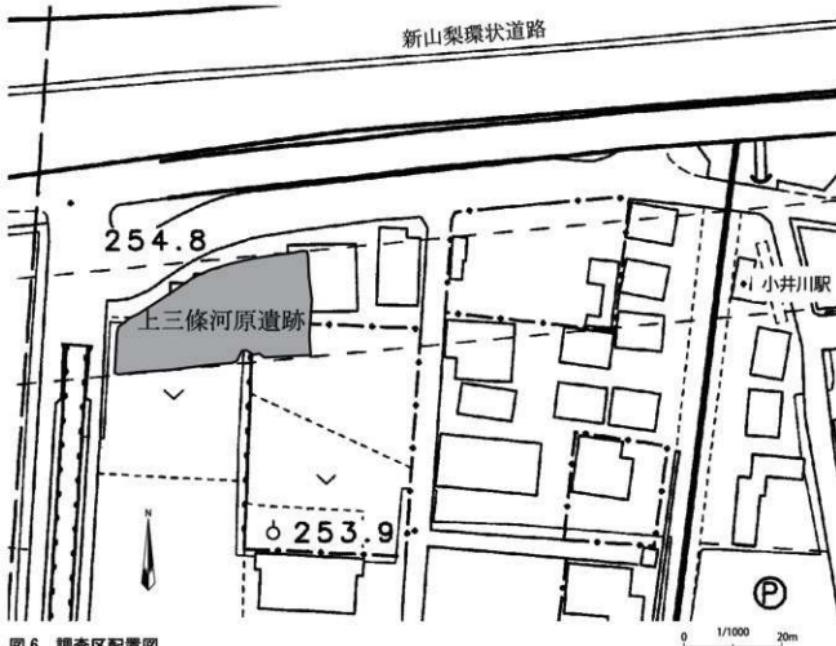


図6 調査区配置図

第2節 基本層序

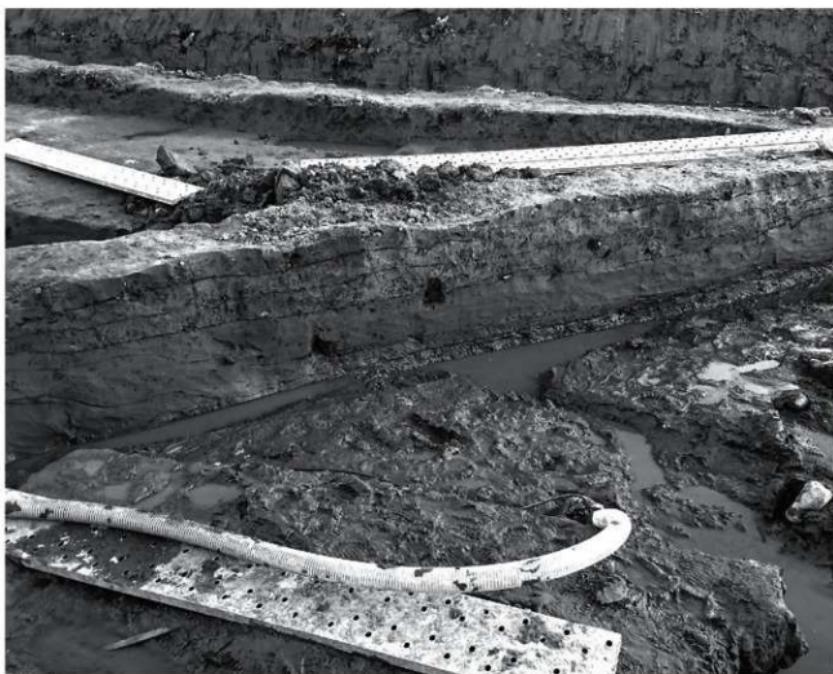
調査区北側では1層の盛土が約70cmと厚いが、これは北側に隣接する新山梨環状道路との側道の建設際に盛土されたものと思われ、畑地に隣接する南側では薄い。6層は植物遺体を多量に含むシルト層であるが、当該地はかつて蓮畑であったといわれており、当時の耕作面である可能性がある。8層の褐灰色シルト層は遺物包含層で、調査区全体で当該層から古墳時代終末期の遺物が発見された。

これより下層は窪み状地形内の層序を基本として記述する。いずれも砂層かシルト層で、①10層で平行ラミナ、12層で斜行ラミナが顕著にみられる点、②10層、12層で下層をブロック状に取り込みながら堆積している点、など水成堆積層の特徴がみられる。①については10層、12層ほどではないが他の層でもみられる。ただし、14層は他の層と比較して層厚が厚めであるが、ラミナ構造は観察できなかつた。9層では全体に土壤化した特徴があり、竈跡付近を中心に、上面に厚さ約4cmの炭化した植物遺存体層が分布している範囲がみられた。当該層は古墳時代終末期の遺物が特に濃密に含んでいる。また15層も顕著な土壤化が認められ、古墳時代終末期の遺物を含む下限の層となっている。

出土遺物は調査区全体に堆積する8層と、窪み状地形内に堆積する9層で特に多く発見された。また15層を下限とし、11層までの間にも遺物が含まれる。10層にはあまり含まれない。

1号土坑と2号土坑は8層を掘り込んで形成し、3号土坑は9層を掘り込んで形成している。いずれも遺物の出土量の多い層の下面を掘削している特徴がある。

調査区内の東端では遺物包含層である8層以下の各層は堆積しておらず、厚い砂疊層の堆積がみられ、特にこのエリアでの出水は著しかった。旧河道域であると考えられる。



基本層序作成位置（A-A' 断面）

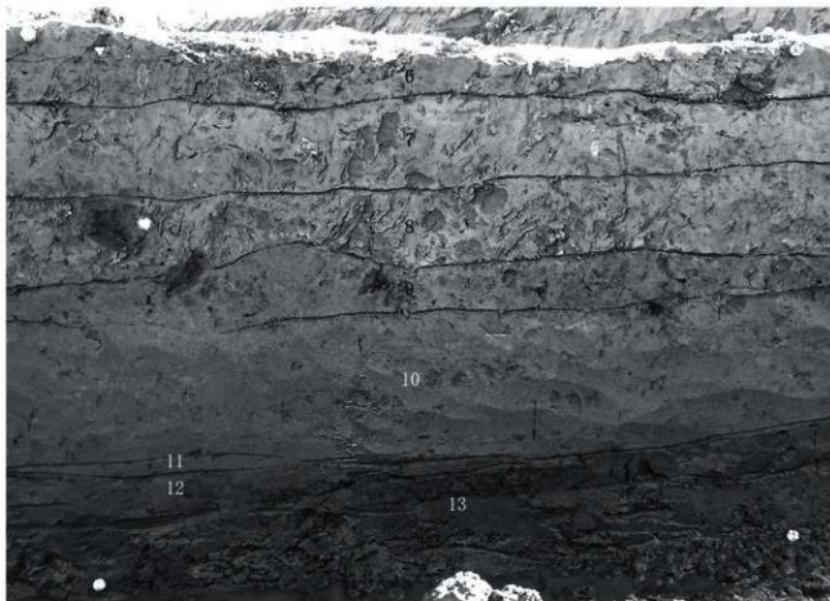
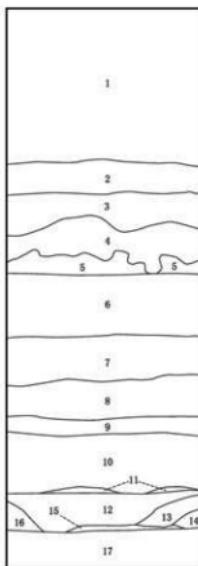


図 7 基本層序

第3節 発見した遺構

(1) 概要

豎穴建物跡 1軒、豎穴建物跡の可能性のある窪み状地形 1か所、土坑 4基が発見された。4号土坑を除くいずれの遺構も、覆土中に古墳時代終末期の遺物を包含するか、遺物包含層の底面を掘削して形成したもので、古墳時代終末期の所産であると考えられる。4号土坑からは加工痕を有する木材が発見された。

なお、豎穴建物跡の可能性のある窪み状地形については「窪み状地形」として本節で事実記載をし、豎穴建物跡である可能性については第4章総括に記載することとする。

(2) 豊穴建物跡

北壁の土層断面でのみ確認した(図13)。幅約6mで、調査区内ではその痕跡を確認できなかった。調査区内の周縁に掘削した排水用の水路内までしか分布しなかったか、著しい出水とシルトや細粒砂を中心とした堆積環境の中で遺構として認識できなかった可能性がある。

遺構覆土にあたる図13の9層と10層内には炭化した植物遺存体の堆積がみられた。これは窪み状地形覆土の9層と15層(図12)の関係に似ている。図13の11層は褐色灰色の砂層である点やラミナ構造が見られない点、遺構に対して地山に位置付けられる点で、窪み状地形周辺の図12の14層に類似する。

(3) 窪み状地形

著しい出水や各層が砂やシルトを中心に構成された環境により、當時排水をしているものの、遺構平面プランの確認は困難を極めた。調査の過程で、調査区北西から南東にかけて窪み状地形が発見され、北西から南東に流れる旧流路の可能性を想定したが、南東側で底面の標高が高くなり(図12C-C')、流路ではなく窪み状の地形であることが判明した。

図12のA-A'断面9層から15層までが窪み状地形を埋めている堆積物である。いずれも砂とシルトで、ラミナ構造をもつ点から水成堆積であるとみられる。

特に9層には厚さ4cm程度の植物遺存体層の分布や、同層周辺を中心とした古墳時代終末期の遺物の濃密な分布がみられる。またそれ以下の各層においても、15層までは同時期の遺物の分布が認められる。

窪み状地形中央部の北側縁辺には古墳時代終末期の遺物を伴うカマド跡が発見された(図10、周辺からの出土遺物は図24:77-83)。袖石の一部と焚口が発見された。焼土はみられなかった。図10ではやや北西から南東に向かう主軸にみえるが、a-a'断面が主軸である。

(4) 土坑

1号土坑(図11) 調査区東端の旧河道に近いエリアで発見された。平面形は楕円形である。覆土内には炭が分解された跡と思われる黒色のブロックが点在していた。高坏の脚部の一部が出土した。

2号土坑(図11) 調査区東端の旧河道に近いエリアで発見された。平面形は楕円形である。1号土坑と同様に、覆土内には炭が分解された跡と思われる黒色のブロックが点在していた。古墳時代終末期の模倣坏が出土した。

3号土坑(図11) 窪み状地形内から発見された。基本層序の10層を遺構底面、9層を覆土としている。平面系は楕円形と思われるが、出水等による調査の困難さから的には認識できず、土層断面での確認となった。

4号土坑(図11) 窪み状地形内から発見された。当該土坑は出水等による調査の困難さから、どの層から掘り込んで形成されたものか不明であるが、8層精査段階では発見されず、9層以下の調査段階で発見された。基本層序における15層を掘削し、16層の上面まで掘りとまっていた。直径21cm程度の正円の平面形で、直径17cm程度の加工痕をもつ木材が据えられていた。

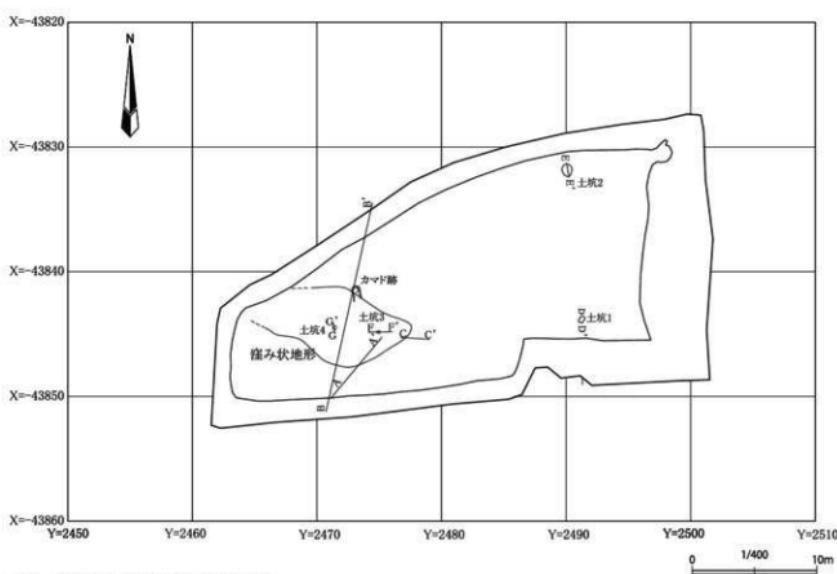
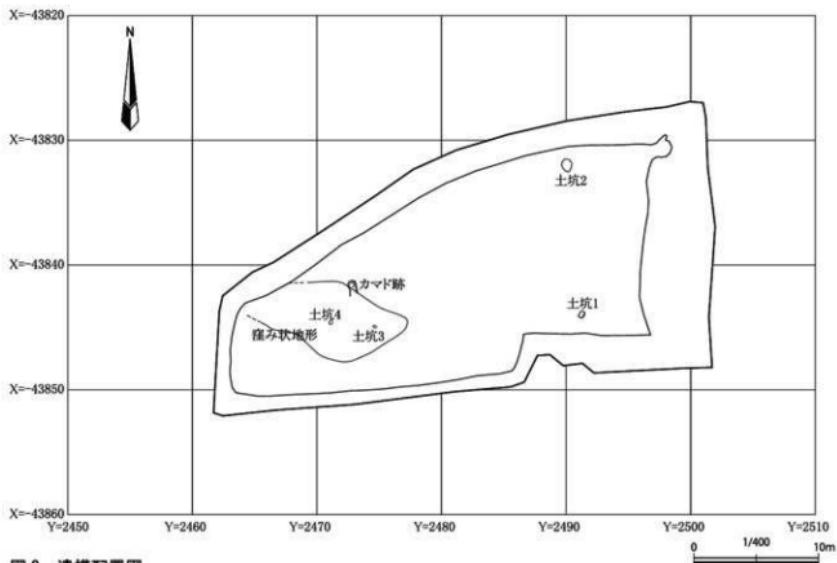
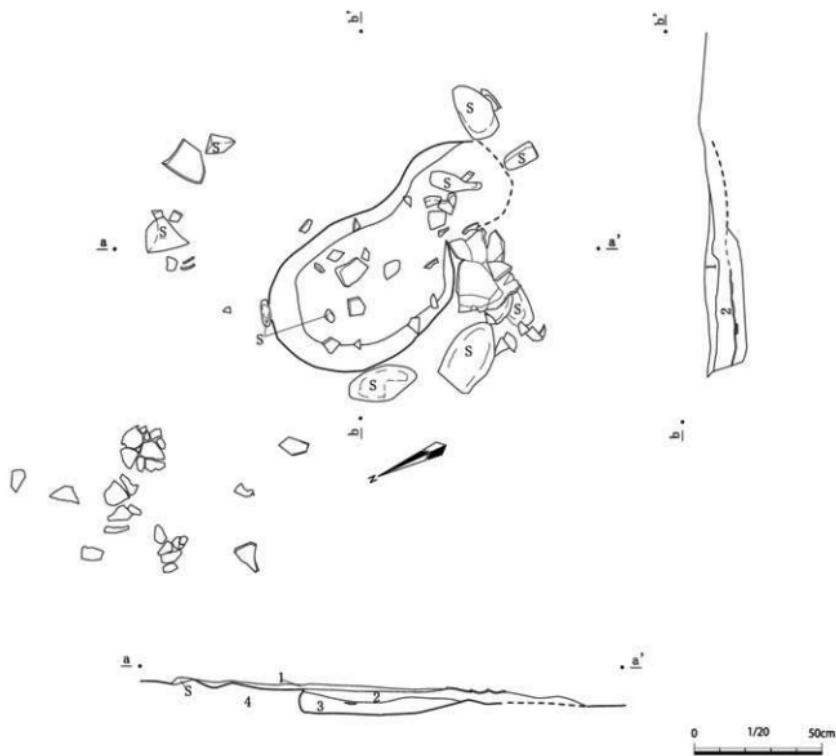


図 9 遺構配置図（ポイント入り）



- 1 暗灰色砂層(10YR4/1)より細かい。
- 2 暗灰色砂層(10YR4/1)3mm以下程度の炭化物を多く含む。
- 3 暗灰色細粒砂層(10YR4/1)間に2mm厚程度の砂層がみられる。
- 4 暗灰色砂層(10YR4/1)下層よりもしまりが強い。微小な炭化物を含み、水平ラミナが見られる。

図10 カマド跡実測図



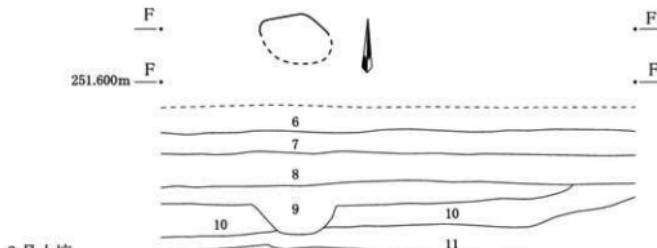
1号土坑

1 黒褐色細粒砂層(10YR3/1)やや黒味の強いところが
まだらにみられる。



2号土坑

1 黒褐色砂粒砂層(10YR3/1)炭質の黒色砂粒砂(10YR2/1)を
まだらに含む。灰黃褐色中粒砂(10YR4/2)が帶状に堆積する。



3号土坑

- 6 黒褐色砂質シルト層(10YR3/1) 植物遺存体が多く含み、特に植物遺存体が多い所では暗褐色(10YR3/4)となる。粘性
しまり共にやや強い。
- 7 暗褐色砂質シルト層(10YR4/1) 粘性強く、しまりやや強い。上層よりしまり弱い。
- 8 暗褐色シルト層(10YR5/1) 上層より粒径が細かく明るい。1cm程度の炭化物を含む。上面から古墳時代の遺物が出土する。
- 9 黒色細粒砂層(10YR2/1) 遺物包含層。地点により、上面に炭化した植物遺存体が最大値4cm程堆積するところがある。3
~10mm程度の炭化物を多く含む。
- 10 黒褐色中粒砂層(10YR3/1) 微小な砂質シルト塊がラミナ状にみられる。下部にはより多く砂質シルト塊がみられる。2mm以下
程度の炭化物を含む。
- 11 黒色中粒砂層(10YR1.7/1) 極めて薄く、上層側に当該層の一部が弱く巻き上がる傾向が見られる。
- 12 黒褐色中粒砂層(10YR3/1)

※3号土坑の土層番号は、基本層序(図7)に対応する。

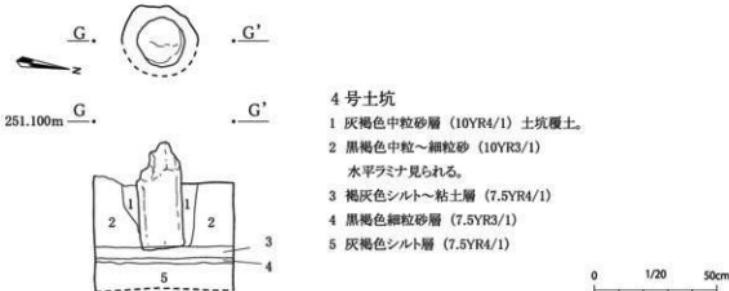
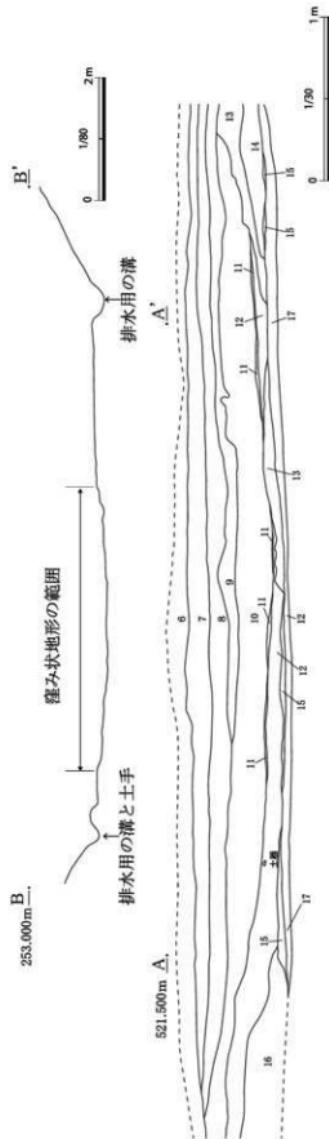
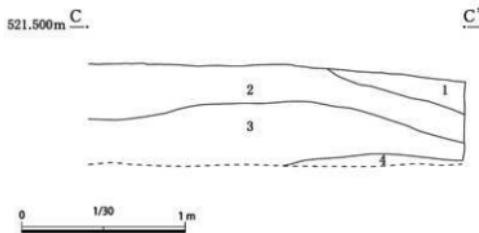
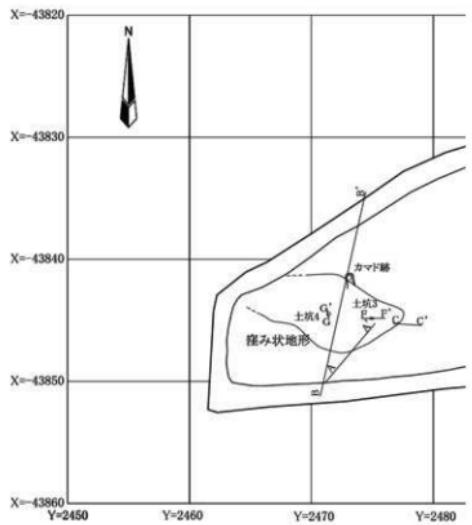


図11 土坑実測図(1~4号)



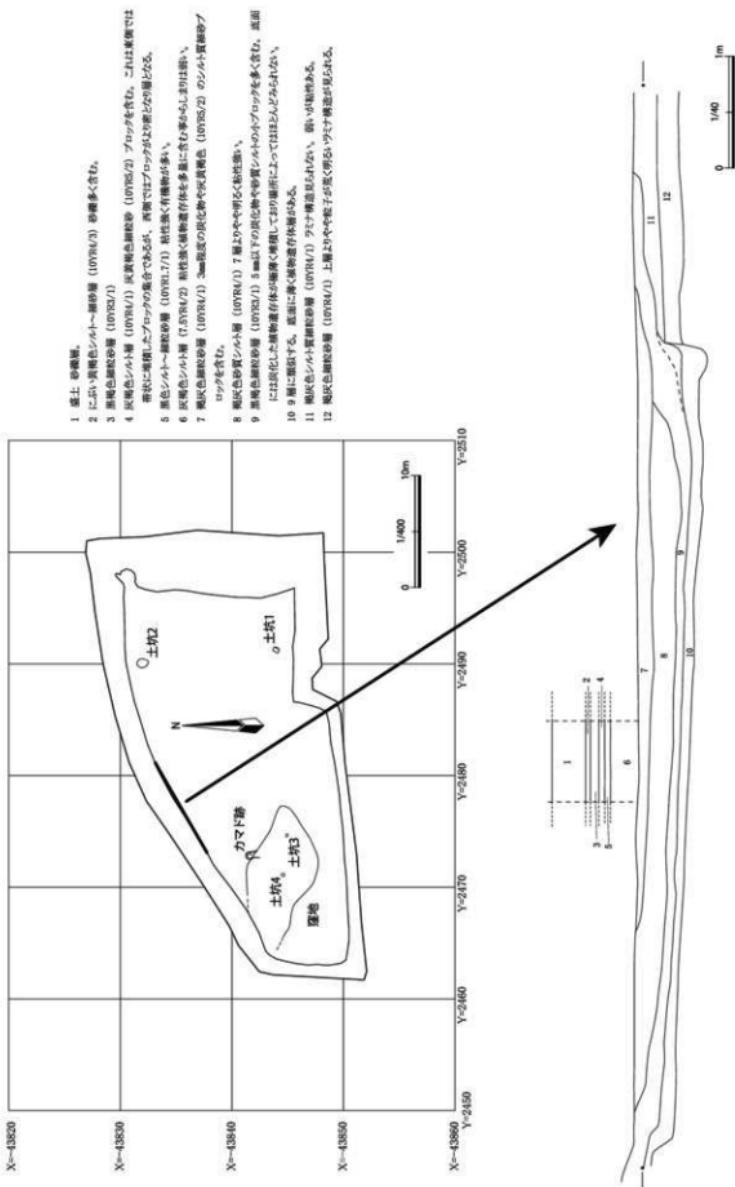


図 13 堆積状況図②

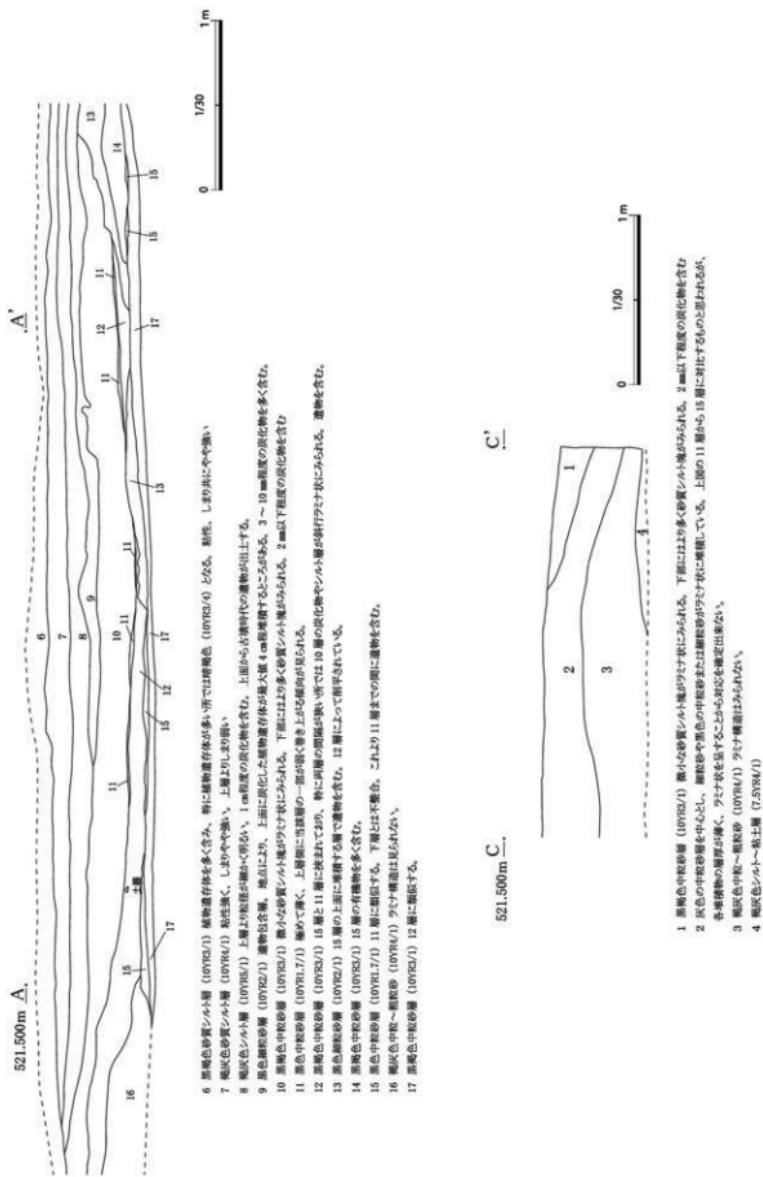


図 14 堆積状況図③



图 15 遗物平面・垂直分布图(全体)

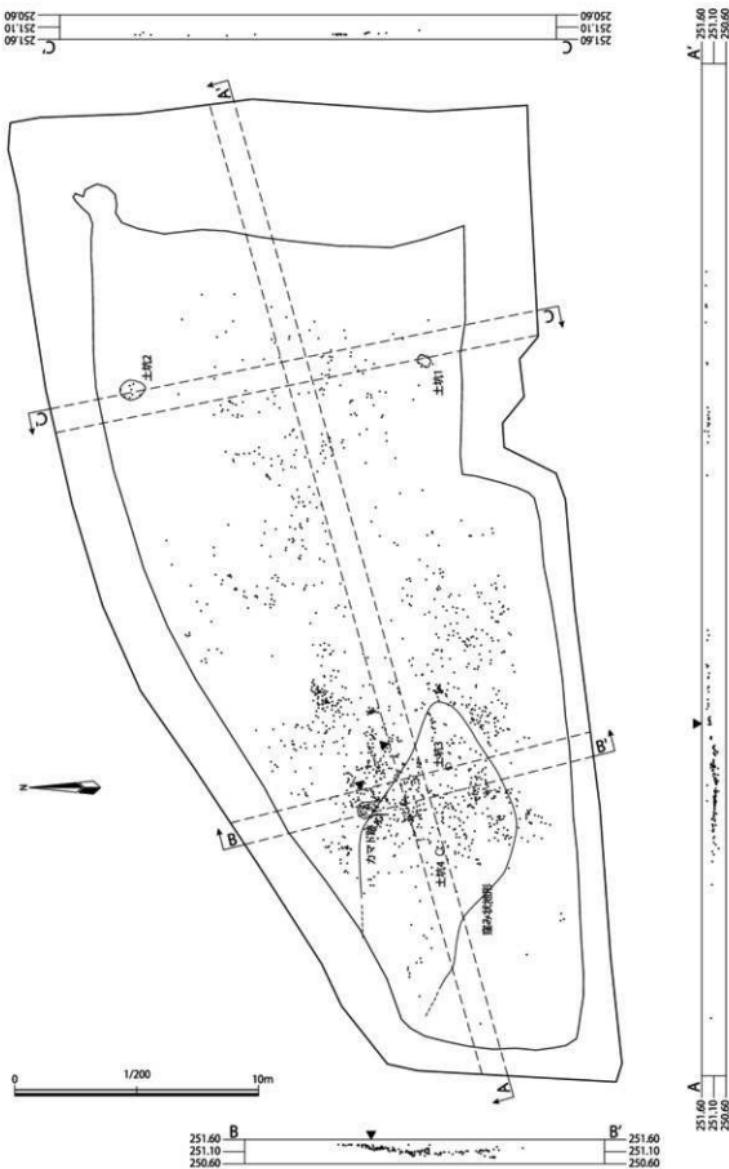


图 16 遗物平面·垂直分布图(部分)

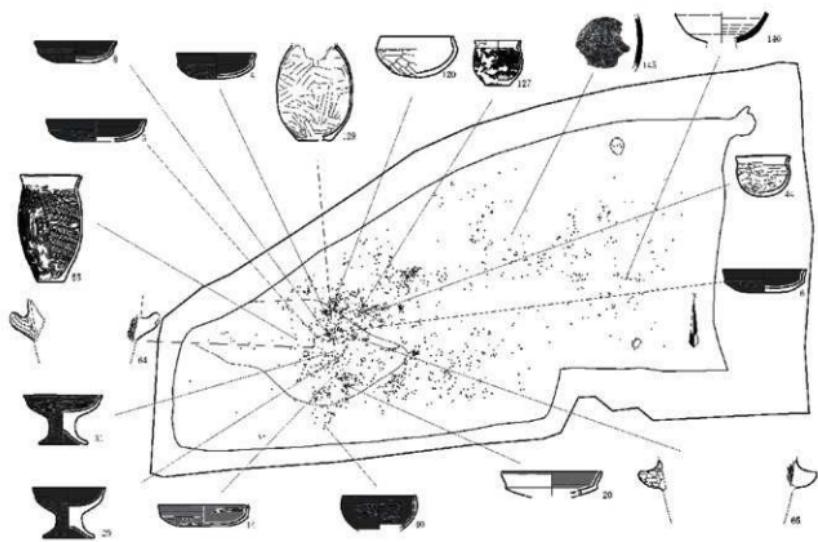


図 17 遺物接合関係図①

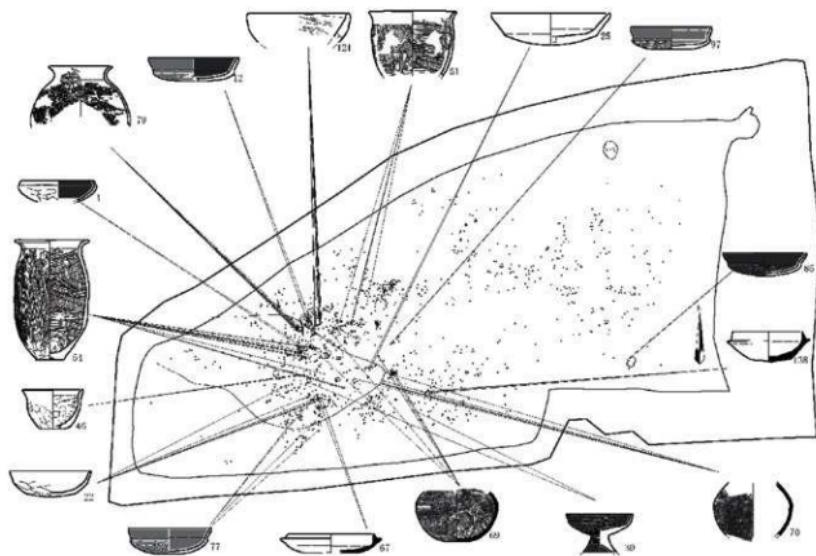


図 18 遺物接合関係図②

第4節 発見した遺物

(1) 概要

今年度調査では、窪み状地形内とそれよりも北東側一帯から古墳時代後期から終末期の遺物が出土した。窪み状地形外では基本層序の8層を中心に出土した。遺物の種別は大半が土器で、三次元の位置情報を記録して取り上げた遺物は1493点あった。

(2) 出土遺物（図19～30）

窪み状地形内 1から76は窪み状地形内から出土した遺物である。1から28、71から73までは土師器の壺である。1は稜線から口縁部が内側に屈折し、それ以外は外反する。外反するものには、14や18のようにほぼ直立するものや3や4のように著しく外側に反するものがある。いずれも稜線よりも底部側にヘラ削り痕が顕著にみられるほか、3は内面にミガキ痕が、7は外面口縁部に、24は内面にヘラミガキ痕がある。8と14には、内面に十字の沈線が刻まれている。1は内面に、2から10、71は内面と外面に、11は外面にそれぞれ黒彩がある。12は外面に赤彩、内面に黒彩がある。13と19は外面に、14から18、72は内面と外面に、20は内面にそれぞれ赤彩がある。29から38は土師器の高壺である。いずれも脚部にはヘラ削りが残るが、壺部には内面と外面にミガキ痕が見られる。29から33には内面と外面に黒彩が、34と36は内面と外面に赤彩が、35、37、39には外面に赤彩がみられる。壺部の形状は齊一性が高いが、脚部は29、31のように壺部との接合部へ直立するものと、30や33のようになだらかな傾斜をもって接合部へ至るもの2種類がある。40から43は土師器の鉢である。40は内面と外面にヘラナデ痕とヘラミガキ痕がみられ、両面に黒彩がある。41は内外両面にヘラ削り痕がみられるほか、内面に指頭圧痕がみられる。42は器形が不明であるが、口縁に向け内湾する特徴をもつ。44から62までは土師器の壺である。44から46は口縁部に対して器高が低くかつ小形である。51、52、54、55、では外面のタテハケ目、内面のヨコハケ目が顕著である。底部下面には木葉痕がある。63から65は土師器の瓶である。ヘラ削り、ヘラミガキのほか、64と65は、把手接合部付近にミガキ痕がみられる。66、68から70、76は須恵器の壺である。66は内面と外面にヘラナデ痕が、68は内面と外面にロクロナデ痕がみられる。69と70は肩部に沈線が引かれ、底部側にタタキ成形痕がみられる。69は内面に同心円文の當て具痕がある。

カマド周辺 土師器の壺(77、78)のほか、土師器の壺(79から82)と土師器の台付壺が出土しているが、特に壺は54や55と比べて大形で胸部が張る形態のものが中心である。カマドの焚口付近でまとまって出土した。

1号土坑 84の土師器の高壺の脚部が出土している。外面に黒彩がみられる。

2号土坑 85の土師器の壺が出土している。内面と外面に黒彩がみられる。稜線から口縁部側は大きく外反する。

窪み状地形、遺構外 86から151までは窪み状地形や遺構の外から出土した遺物である。窪み状地形内で出土した遺物と同様の傾向であるが、144と145の須恵器の提瓶や148の土師器の蓋、149の土師器の羽口などは窪み状地形内にみられない。また、調査区縁辺の排水用の溝の中（南側）から151の砥石が発見された。

(3) 遺物分布

遺物は窪み状地形内の基本層序の9層内に特に多く分布する傾向がある。特に北側のカマド跡周辺に分布した植物遺存体の分布範囲と遺物の密集は重なる。また窪み状地形の北東側からも比較的多く分布する傾向がある。それらは基本層序の8層に多く含まれる。窪み状地形の南東側での遺物の分布は希薄である。

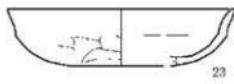
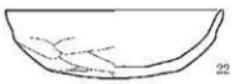
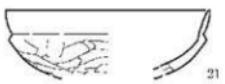
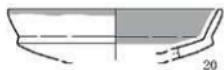
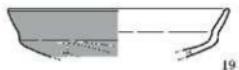
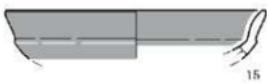


図19 遺物実測図①

0 1/3 10mm

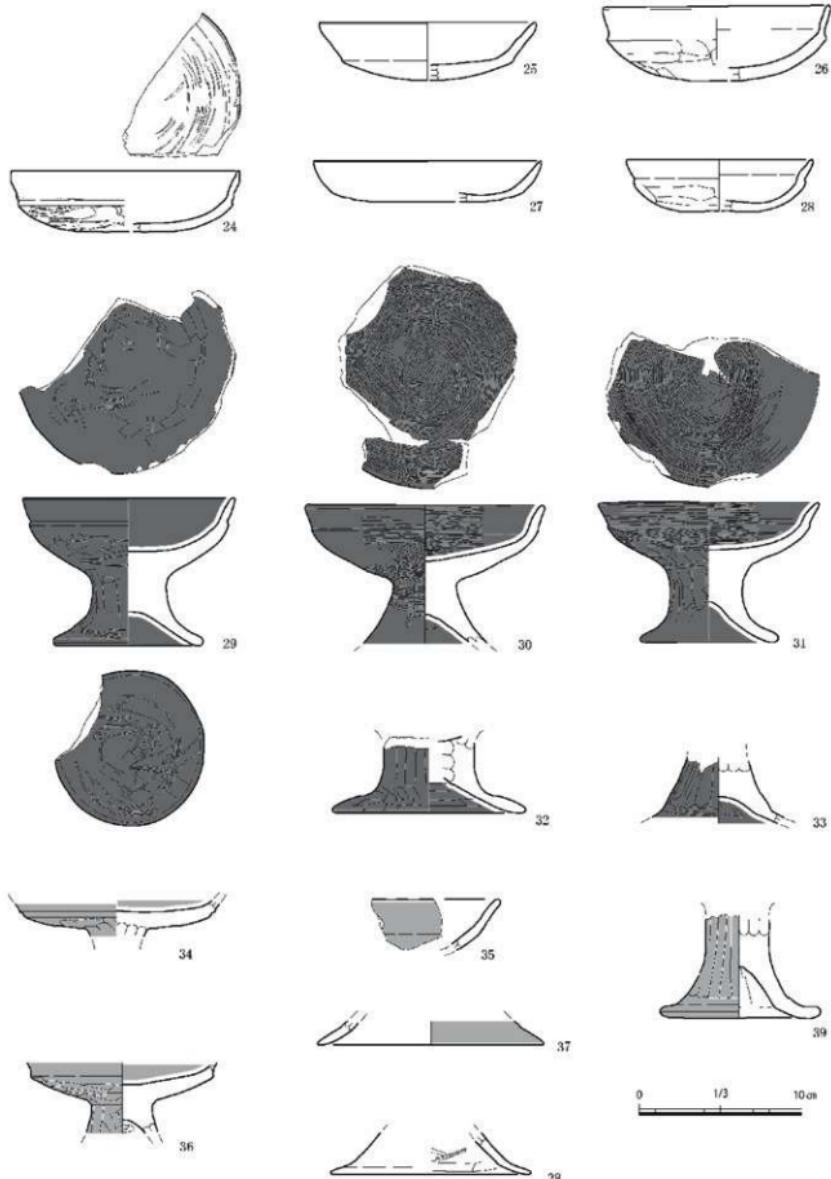


图 20 遺物実測図②

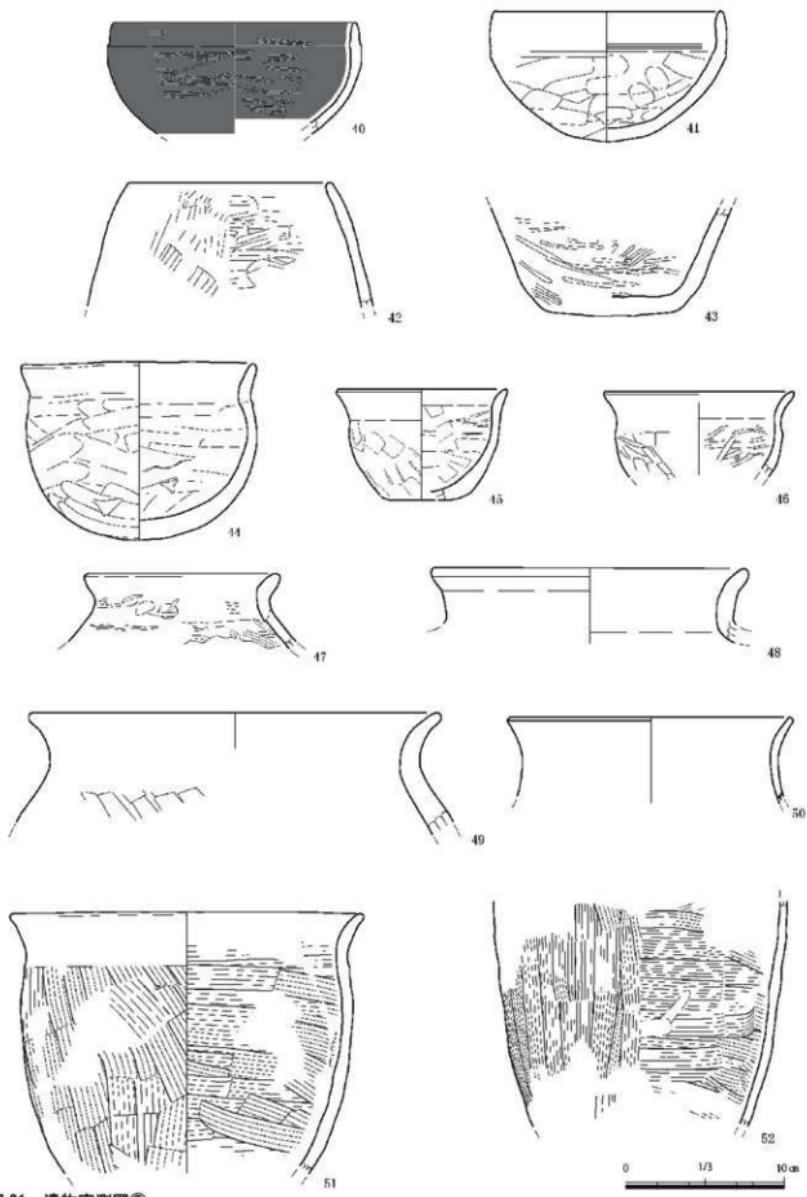


図21 遺物実測図③

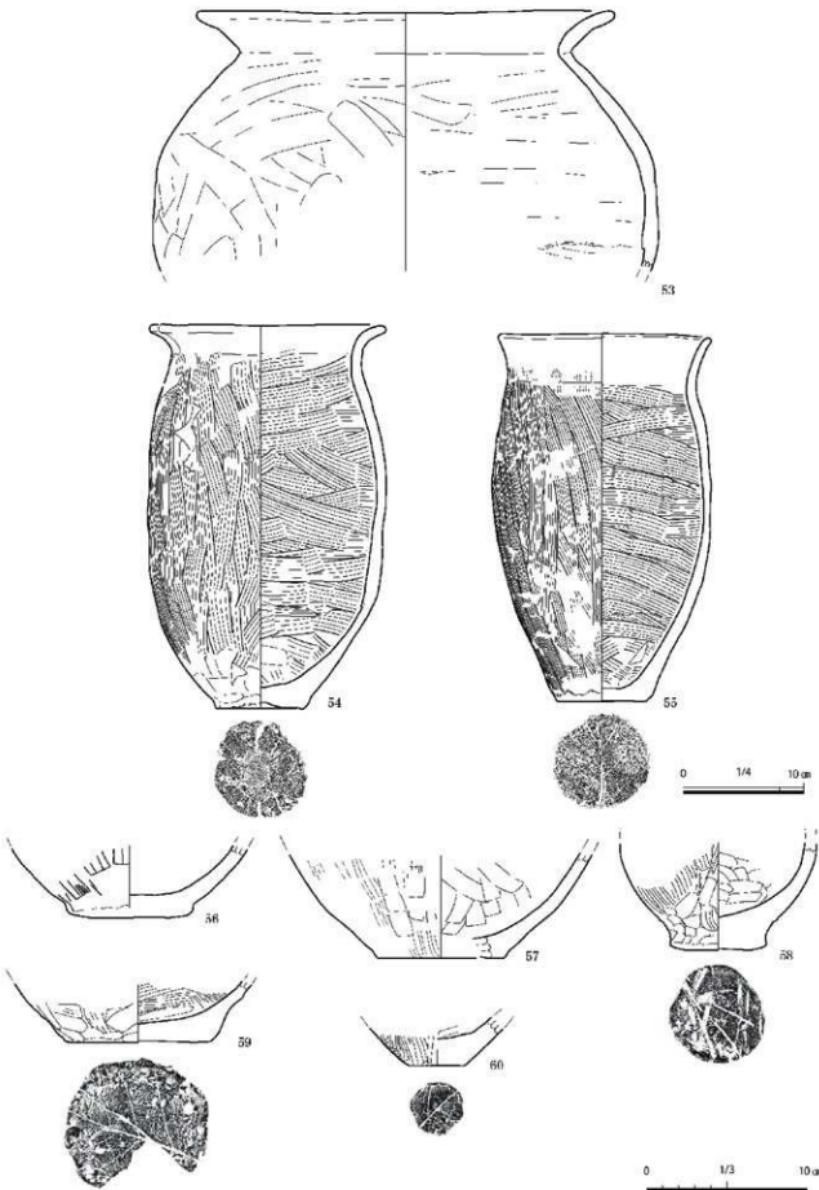


图 22 遗物実測図④

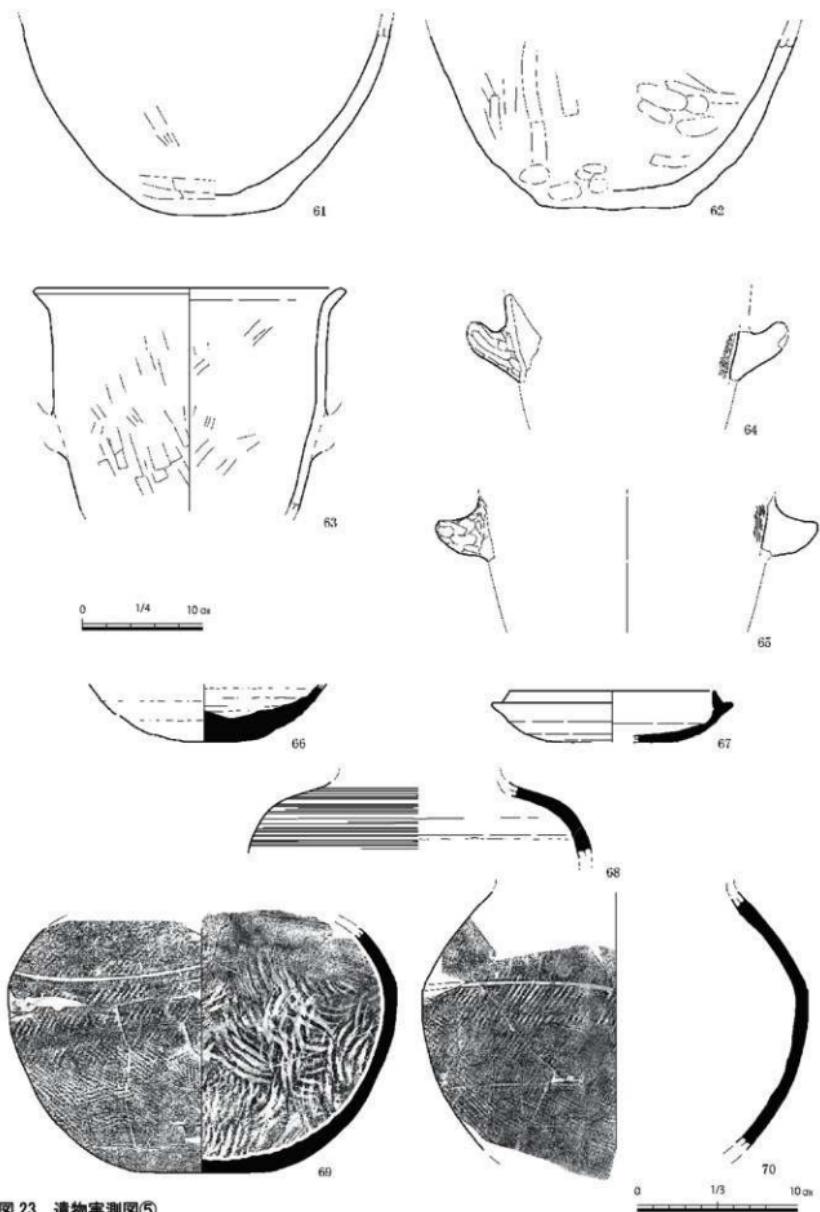
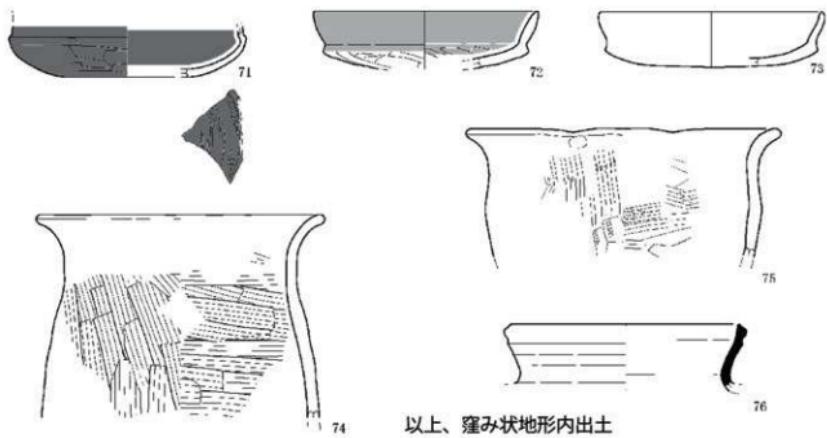
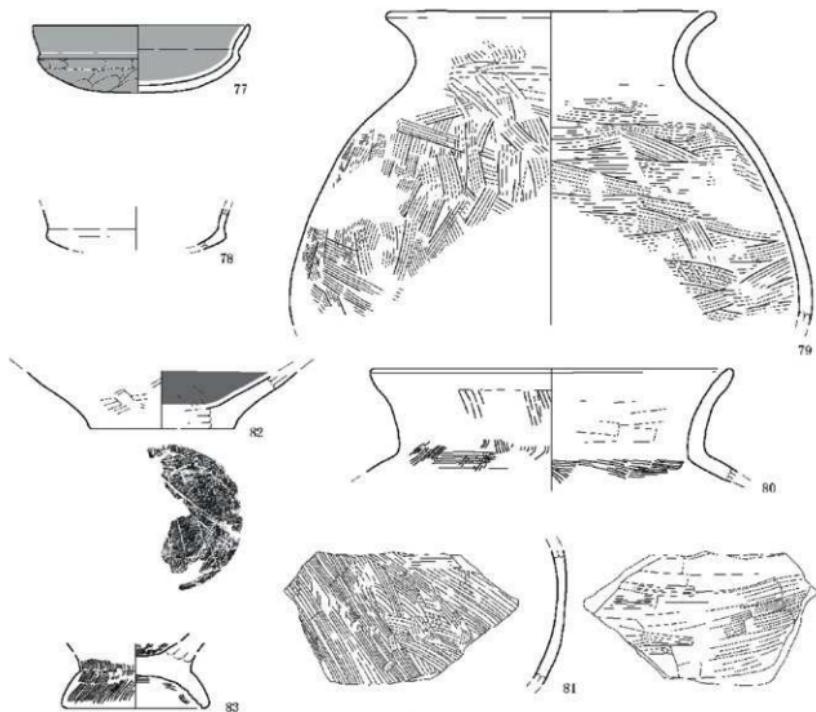


图 23 遺物実測図⑤



以上、窪み状地形内出土



カマド跡周辺

図24 遺物実測図⑥

0 1/3 10cm

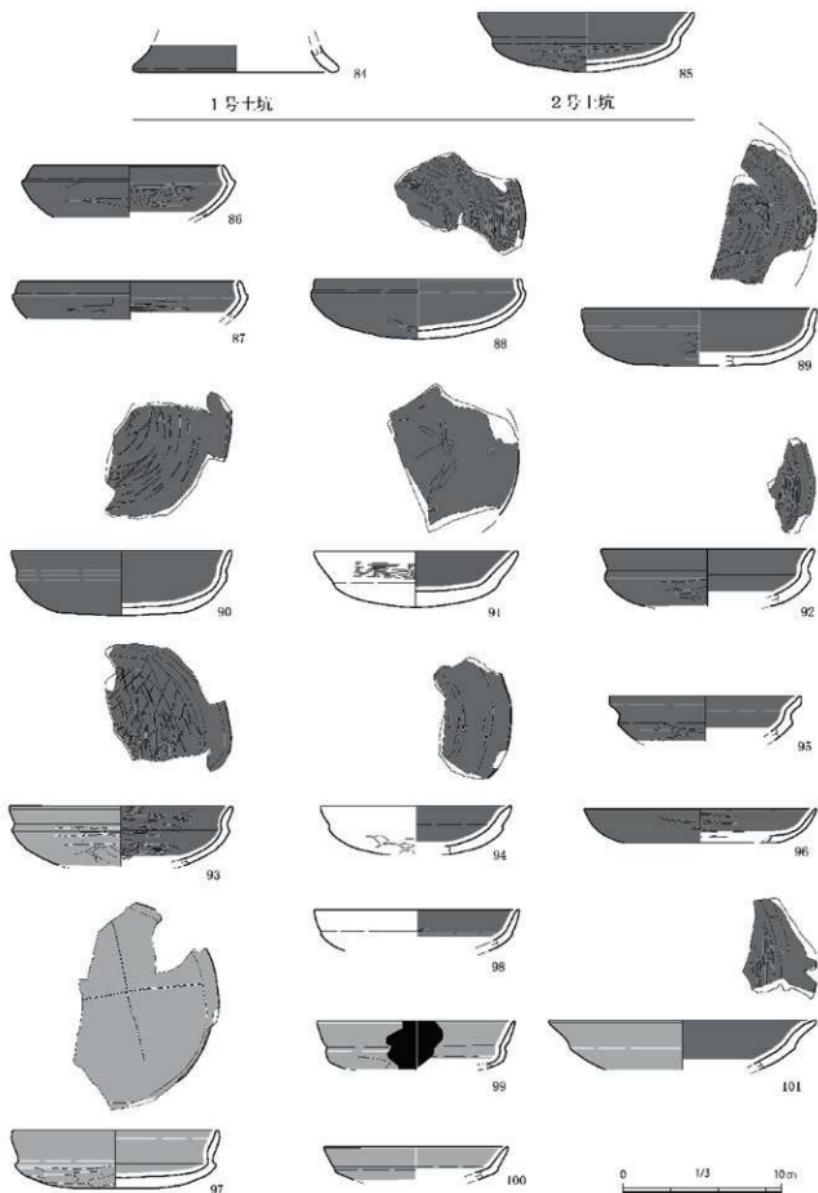


图25 遗物実測図⑦

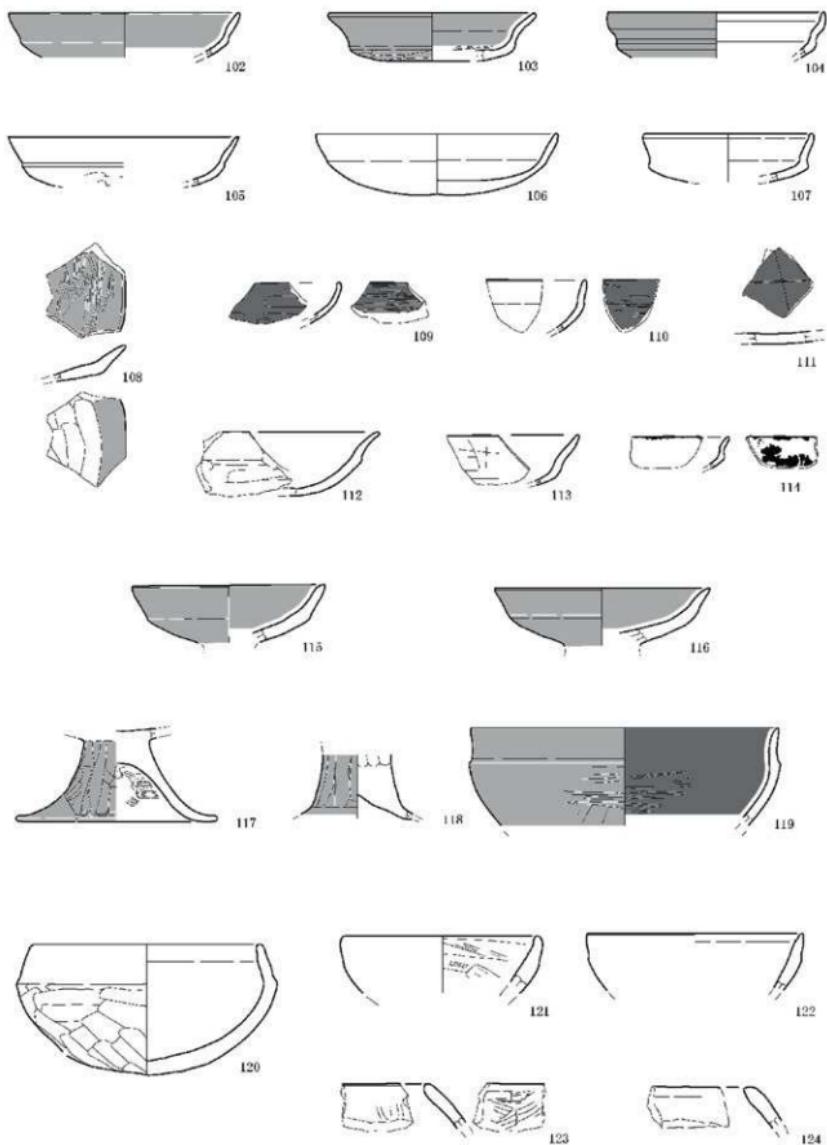
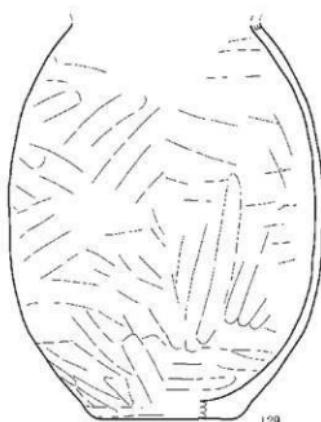
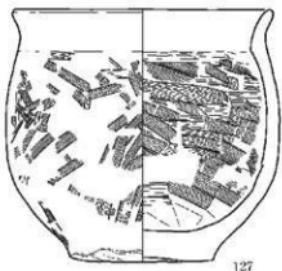
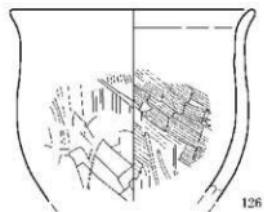
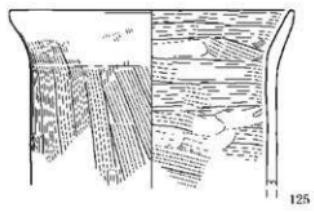


図 26 遺物実測図⑧



0 1/3 10cm

图 27 遗物実測図⑨

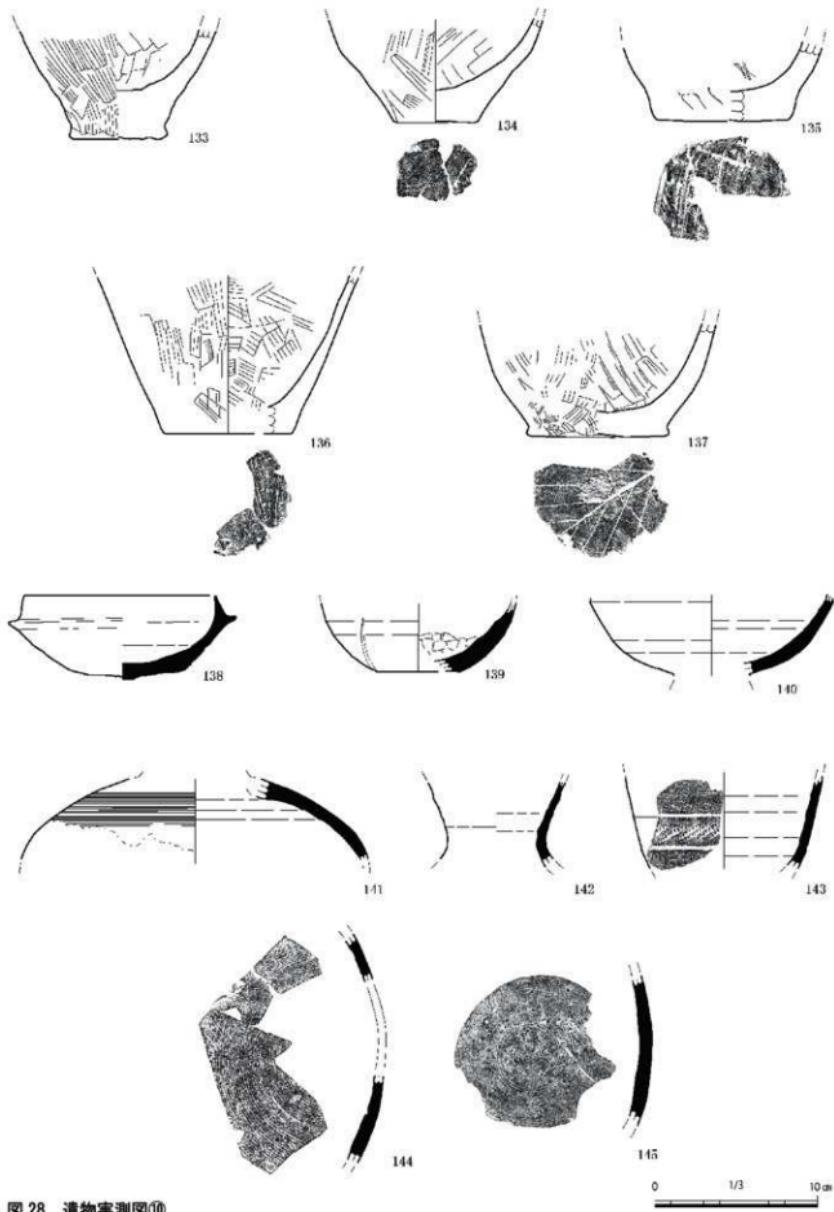


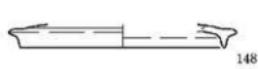
図28 遺物実測図⑩



146



147



148

0 1/3 10cm

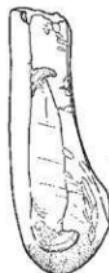


149



150

0 1/2 5cm



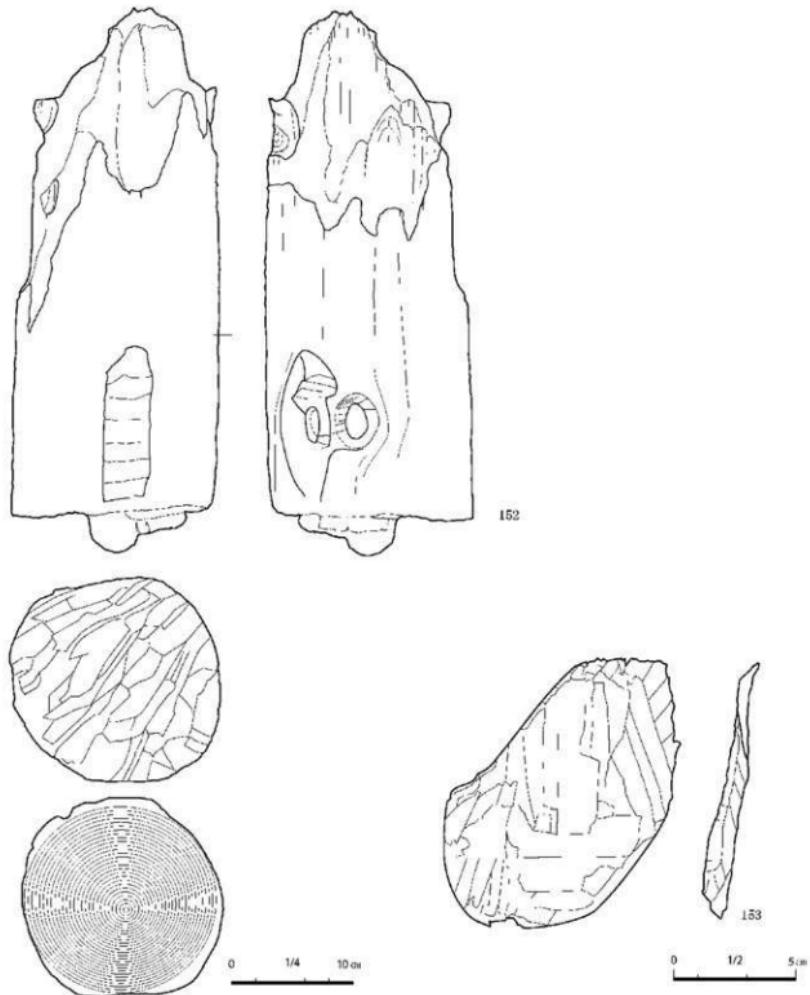
151



0 1/3 10cm

以上 遺構外出土

图 29 遗物実測図①



4号土坑出土

图 30 遗物实测图②

特征	種別 番号	種子	播行率	寸法 (cm)			形状・操作法		色調	施土	供給	時期	戸番号	備考		
				口径	底径	高さ	外側	内面								
1 土留種 糸	20%	(14.0) —	(3.5)	クロロゲン ナフ	クロロゲン ナフ	—	0/FR/2	黑色 —	黑色砂粒	良好	吉澤	10/28	内面 外側黒			
2 土留種 糸	口留種~体留 繩片	(14.0) —	(4.0)	ヘラジア~ナフ	ヘラジア~ナフ	—	0/FR/2	黑色 —	白色砂粒	良好	吉澤	4/29	外側黒			
3 土留種 糸	20%	(12.6) —	(3.5)	ナフ~ヘラジア	ナフ~ヘナナフ	3.5f	—	0/FR/2	黑色 —	黑色砂粒	良好	吉澤	10/20	外側黒		
4 土留種 糸	60%	(12.6) —	4.0	ヘナナフ~ヘラジア	ヘナナフ~ヘラジア	ナフ~ヘナナフ	—	0/FR/2	黑色 —	白色砂粒	良好	吉澤	11/5	外側黒		
5 土留種 糸	20%	(15.6) —	3.5	ナフ~ヘラジア	ナフ~ヘラジア	ナフ	—	0/FR/4	黑色 —	白色粒子	良好	吉澤	3/18	外側黒		
6 土留種 糸	20%	(11.6) —	3.2	ナフ~ヘラジア	ナフ~ヘラジア	ナフ	—	0/FR/2	黑色 —	白色粒子	良好	吉澤	3/15	外側黒		
7 土留種 糸	20%	(11.0) —	(3.5)	ヘラジア~ナフ	ヘラジア~ナフ	—	0/FR/2	黑色 —	黑色砂粒	良好	吉澤	10/6	外側黒			
8 土留種 糸	40%	(13.0) —	3.5	クロロゲン ナフ	クロロゲン ナフ	—	0/FR/2	黑色 —	白色砂粒	良好	吉澤	3/1-1	外側黒	内面黒		
9 土留種 糸	口留種~体留 繩片	(11.3) —	(2.8)	ヘナナフ~ヘラジア	ヘナナフ~ヘラジア	—	0/FR/3	黑色 —	白色粒子	良好	吉澤	1/81	外側黒			
10 土留種 糸	20%	(15.0) —	(2.8)	ナフ	ナフ	—	0/FR/2	黑色 —	白色粒子	良好	吉澤	3/19	外側黒			
11 土留種 糸	口留種~体留 繩片	(13.8) —	3.4	ヘラジア~ナフ	ヘラジア~ナフ	—	0/FR/2	黑色 —	白色粒子~蜜味	良好	吉澤	4/28	外側黒			
12 土留種 糸	50%	(12.4) —	3.2	ヘラジア	ヘラジア	ナフ	—	0/FR/2	黑色 —	白色粒子~蜜味	良好	吉澤	1/61 - 1/62-1	外側黒	内面黒	
13 土留種 糸	40%	(12.6) (8.0) 3.4	ヘラジア~ヘラジア	ヘラジア~ヘラジア	—	0/FR/4	黑色 —	0/FR/2	黑色 —	白色粒子	良好	吉澤	2/53	外側黒		
14 土留種 糸	80%	(14.4) 7.0 3.3	ナフ~ヘラジア	ナフ~ヘラジア	—	0/FR/3	黑色 —	0/FR/2	黑色 —	白色粒子	良好	吉澤	2/13	外側黒		
15 土留種 糸	口留種~体留 繩片	(15.8) —	(3.5)	ヘラジア~ナフ	ヘラジア~ナフ	—	0/FR/2	黑色 —	白色粒子~蜜味	良好	吉澤	1/63	外側黒			
16 土留種 糸	口留種~体留 繩片	(13.2) (7.0) 2.0	ヘラジア	ヘラジア	ナフ	—	0/FR/2	黑色 —	白色粒子	良好	吉澤	1/32	外側黒			
17 土留種 糸	20%	(12.6) (4.0) 2.0	ナフ~ヘラジア	ナフ~ヘラジア	ナフ	—	0/FR/2	黑色 —	白色~黑色 —	0/FR/2	黑色 —	良好	吉澤	1/67-1	外側黒	
18 土留種 糸	口留種~体留 繩片	(14.0) (8.0) 2.0	ヘラジア	ヘラジア	—	2/FR/5	黑色 —	0/FR/2	黑色 —	白色粒子~蜜味	良好	吉澤	1/68	外側黒		
19 土留種 糸	繩片	(13.6) —	(3.0)	ナフ	ナフ	ナフ~ヘラジア	—	0/FR/4	黑色 —	白色砂粒	良好	吉澤	1/63	外側黒	内面黒	
20 土留種 糸	20%	(12.8) —	(3.5)	ナフ	ナフ	—	0/FR/4	黑色 —	白色砂粒	良好	吉澤	1/63	外側黒	内面黒		
21 土留種 糸	20%	(12.4) —	(4.0)	ナフ~ヘラジア	ナフ~ヘラジア	ナフ	—	0/FR/4	黑色 —	白色砂粒	良好	吉澤	1/31	外側黒		
22 土留種 糸	90%	13.2 —	4.3	ヘラジア~ナフ	ヘラジア~ナフ	ナフ	—	0/FR/6	黑色 —	白色砂粒	良好	吉澤	1/53 - 1/55	外側黒		
23 土留種 糸	口留種~体留 繩片	(14.0) (5.5) 3.6	ヘラジア	ヘラジア	ナフ	—	2/FR/5	黑色 —	2/FR/5	黑色 —	白色粒子	良好	吉澤	1/50	口留種付	
24 土留種 糸	口留種~体留 繩片	(14.0) 3.8	ヘラジア~ナフ	ヘラジア~ナフ	—	2/FR/3	黑色 —	0/FR/4	黑色 —	白色粒子	良好	吉澤	3/2	外側黒		
25 土留種 糸	50%	(13.2) (3.2) 2.6	ナフ	ナフ	—	0/FR/6	黑色 —	0/FR/2	黑色 —	白色粒子	良好	吉澤	8/2	外側黒	内面黒	
26 土留種 糸	20%	(13.7) (3.0) 4.6	ナフ~ヘラジア	ナフ~ヘラジア	ナフ	—	0/FR/3	黑色 —	白色粒子	良好	吉澤	1/18 - 1/19 - 1/20	外側黒			
27 土留種 糸	口留種~体留 繩片	(14.0) (8.0) 2.5	ヘラジア	ヘラジア	—	2/FR/4	黑色 —	0/FR/3	黑色 —	白色粒子	良好	吉澤	1/42	外側黒		
28 土留種 糸	80%	(11.4) (5.2) 2.1	ナフ~ヘラジア	ナフ~ヘラジア	ナフ	—	2/FR/2	黑色 —	白色粒子	良好	吉澤	4/24	外側黒			
29 土留種 糸	高	(13.6) 9.0 2.5	ナフ~ヘラジア	ナフ~ヘラジア	—	2/FR/2	黑色 —	0/FR/2	黑色 —	白色砂粒	良好	吉澤	5/25	外側黒		

3 洪	引 土质稻	黑	黑稻形~黑稻 糙片	—	(8.7)	(12.0)	子#	—	5/5FH/4 黑紫穗色	黑籽, 白壳, 黑色稻子	黑籽, 古讷	1103, 1479		
41 洪	62 土质稻	黑	口椭形~黑稻 糙片	20%	(8.4)	(10.8)	ヘラナデ	ヘラナデ	5/5FH/2 白穗色	—	5/5FH/2 白穗色	黑籽, 古讷	314, 427	
王士洁	63 土质稻	黑	口椭形~黑稻 糙片	—	(8.6)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	5/5FH/4(ニ)5/5H/2 黑穗色	—	5/5FH/4(ニ)5/5H/2 黑穗色	黑籽, 古讷	1482, 1483, 1499, 1473,	
物	64 土质稻	黑	—	黑大粒 (8.0)	穗大 (9.2)	穗 (5.1)	ヘラナデ	ヘラナデ	5/5FH/2 黑穗色	—	5/5FH/2 黑穗色	黑籽, 古讷	1475, 1476, 1477	
物	65 土质稻	黑	—	黑大粒 (7.7)	穗大 (8.0)	穗 (6.2)	ヘラナデ, ナシ	ヘラナデ	5/5FH/3(ニ)5/5H/2 黑穗色	—	5/5FH/3(ニ)5/5H/2 黑穗色	黑籽, 古讷	5/5FH/3(ニ)5/5H/2 黑穗色	
物	66 滚穗稻	黄	圆粒~滚穗糙片	—	—	(3.8)	ヘラナデ	ヘラナデ	5/5FH/3 黄穗色	—	5/5FH/3 黄穗色	白稻子	古讷	
物	67 滚穗稻	黄	—	—	(10.0)	穗大 (12.7)	ヘラナデ	ヘラナデ	5/5FH/4 黄穗色	—	5/5FH/4 黄穗色	白稻子	古讷	
物	68 滚穗稻	黄	圆穗片	—	—	(4.7)	ロクロナデ	ロクロナデ	5/5FH/4 黄灰色	—	5/5FH/4 黄灰色	白稻子	古讷	
物	69 滚穗稻	黄	新穗~圆穗糙片	—	—	(15.8)	ロクロナデ	ロクロナデ	5/5FH/4 黄灰	—	5/5FH/4 黄灰	白, 黑色稻子	古讷	
物	70 滚穗稻	黄	圆穗片	—	—	(16.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	5/5FH/4 黄灰	—	5/5FH/4 黄灰	白, 黑色稻子	古讷	
物	71 土质稻	灰	休穗片	—	—	(3.1)	ヘラナデ	ヘラナデ	5/5FH/3 黄穗色	—	5/5FH/3 黄穗色	白稻子	古讷	
物	72 土质稻	灰	—	—	(13.8)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	5/5FH/4(ニ)5/5H/2 黑穗色	—	5/5FH/4(ニ)5/5H/2 黑穗色	黑稻粉	古讷	
物	73 土质稻	灰	口椭形~休穗 糙片	—	(13.8)	—	—	ヘラナデ	5/5FH/3 黑穗色	—	5/5FH/3 黑穗色	白, 黑色稻子	古讷	
物	74 土质稻	黑	口椭形~休穗 糙片	—	(17.5)	—	ナデ ハケ目	ナデ ハケ目	5/5FH/4(ニ)5/5H/2 黑穗色	—	5/5FH/4(ニ)5/5H/2 黑穗色	白稻子	古讷	
物	75 土质稻	黑	口椭形~休穗 糙片	—	(18.6)	—	ナデ ハケ目	ナデ ハケ目	5/5FH/5 黑穗色	—	5/5FH/5 黑穗色	白, 黑色稻子	古讷	
物	76 土质稻	黄	—	—	(14.0)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	5/5FH/3 黄穗色	—	5/5FH/3 黄穗色	白稻子	古讷	
物	77 土质稻	灰	休	80%	13.4	—	ナデ, ヘラナデ	ナデ	5/5FH/4(ニ)5/5H/2 黑穗色	—	5/5FH/4(ニ)5/5H/2 黑穗色	黑稻粉	古讷	
物	78 土质稻	灰	糙片	—	—	(2.5)	ヘラナデ	ヘラナデ	5/5FH/3 黑穗色	—	5/5FH/3 黑穗色	白, 黑色稻子	古讷	
物	79 土质稻	黑	口椭形~休穗 糙片	20%	(18.8)	—	ナデ, ミガキ	ナデ	5/5FH/3(ニ)5/5H/2 黑穗色	—	5/5FH/3(ニ)5/5H/2 黑穗色	长石, 墨脱, 灰石	古讷	
物	80 土质稻	黑	—	—	(22.0)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	5/5FH/3 黑穗色	—	5/5FH/3 黑穗色	白, 黑色稻子	古讷	
物	81 土质稻	黑	糙片	—	—	(8.2)	ハケ目	ヘラナデ, ハケ目	5/5FH/3 黑穗色	—	5/5FH/3 黑穗色	白, 黑色稻子	古讷	
物	82 土质稻	黑	口椭形~休穗 糙片	—	(8.0)	—	ナデ	ナデ	5/5FH/4(ニ)5/5H/2 黑穗色	—	5/5FH/4(ニ)5/5H/2 黑穗色	白稻子	古讷	
物	83 土质稻	台仔梗	稻形	—	(8.2)	ハケ目	ハケ目	ナデ	5/5FH/4(ニ)5/5H/2 黑穗色	—	5/5FH/4(ニ)5/5H/2 黑穗色	白, 黑色稻子	古讷	
物	84 土质稻	黑籽	休穗片	—	(12.4)	(1.7)	ナデ	ナデ	5/5FH/3(ニ)5/5H/2 黑穗色	—	5/5FH/3(ニ)5/5H/2 黑穗色	黑稻粉	古讷	
物	85 土质稻	灰	20%	(13.4)	—	3.8	ナデ, ヘラナデ	ナデ	5/5FH/2 黑穗色	—	5/5FH/2 黑穗色	黑稻粉	古讷	
物	86 土质稻	灰	口椭形~休穗 糙片	—	(12.0)	—	(3.2)	ナデ, ヘラナデ	ナデ, ミガキ	5/5FH/2 灰白色	—	5/5FH/2 灰白色	白稻子	古讷
物	87 土质稻	灰	口椭形糙片	—	(14.0)	—	(2.4)	ナデ	ミガキ	—	5/5FH/2 灰白色	白稻子	古讷	
物	88 土质稻	灰	—	—	(12.8)	—	3.8	ナデ, ヘラナデ	ナデ, ミガキ	—	5/5FH/2 休穗色	白稻子	古讷	
物	89 土质稻	灰	口椭形~休穗 糙片	—	(14.8)	—	(3.6)	ナデ, ヘラナデ	ナデ	5/5FH/3 黄穗色	—	5/5FH/3 黄穗色	白稻子	古讷
物	90 土质稻	灰	20%	(13.8)	(0.6)	4.1	ナデ, ヘラナデ	ナデ, ミガキ	5/5FH/3(ニ)5/5H/2 黑穗色	—	5/5FH/3(ニ)5/5H/2 黑穗色	白稻子	古讷	
物	91 土质稻	灰	—	—	(13.5)	3.5	ナデ, ヘラナデ	ナデ	5/5FH/2 休穗色	—	5/5FH/2 休穗色	白稻子	古讷	

第3章 物物观察表(3)

92	土鷹鷹 坪	口端部-体幅 端片	(13.4) — (3.5)	ナデ \rightarrow ナデ ミガキ	ナデ \rightarrow ナデ ミガキ	— —	2.575(6.1) \rightarrow 小黄褐色	白色斑子 良好	吉澤 一信	内外通透形	
93	土鷹鷹 坪	20% 口端部	(13.0) — (3.4)	ミガキ	ナデ \rightarrow ナデ ミガキ	— —	2.575(3) 黄褐色	白、黑色斑子 良好	吉澤 一信	内外通透形	
94	土鷹鷹 坪	25%	(12.0) — (3.1)	ナデ \rightarrow ナデ ミガキ	ミガキ	— —	2.575(2) 黄褐色	白色斑子 良好	吉澤 一信	内外通透形	
95	土鷹鷹 坪	端片	(12.0) — (3.2)	ヘマチドリ-ヘマチドリ ミガキ	ヘマチドリ ミガキ	— —	2.575(3) 黄褐色	米、黑色斑子 良好	吉澤 一信	内外通透形	
96	土鷹鷹 坪	20%	(14.6) (2.1)	ナデ	ヘマチドリ ミガキ	— —	2.575(2) 黄褐色	米斑点、斑塊 良好	吉澤 一信	内外通透形	
97	土鷹鷹 坪	85%	(12.8) (4.6) — (2.1)	ナデ \rightarrow ナデ ミガキ	ナデ ミガキ	— —	2.575(8) 白色 10%RF / 黑褐色	黑色、白色斑子 良好	吉澤 291	内外通透形	
98	土鷹鷹 坪	口端部-体幅 端片	(12.8) — (2.1)	ミガキ	ミガキ	— —	2.575(8) 黑褐色	黑色斑子 良好	吉澤 一信	内外通透形	
99	土鷹鷹 坪	45%	(12.6) — (3.2)	ナデ \rightarrow ナデ ミガキ	ナデ ミガキ	— —	2.575(8) 黄褐色	白色斑子 良好	吉澤 一信	内外通透形	
100	土鷹鷹 坪	口端部-体幅 端片	(11.6) — (2.1)	ナデ	ナデ ミガキ	ナデ ミガキ	— —	2.575(8) 5% 黄褐色	黑色斑子 良好	吉澤 一信	内外通透形
101	土鷹鷹 坪	口端部-体幅 端片	(11.6) — (2.1)	ナデ \rightarrow ナデ ミガキ	ナデ \rightarrow ナデ ミガキ	ナデ ミガキ	— —	2.575(8) 5% 黄褐色	黑色斑子 良好	吉澤 一信	内外通透形
102	土鷹鷹 坪	口端部-体幅 端片	(14.2) — (3.0)	ナデ	ナデ ミガキ	ナデ ミガキ	— —	2.575(8) 黄褐色	黑色斑子 良好	吉澤 一信	内外通透形
103	土鷹鷹 坪	10%	(12.7) — (3.0)	ナデ	ナデ \rightarrow ナデ ミガキ	ナデ ミガキ	— —	2.575(1) 黄褐色 \sim 5% 黄褐色	白色斑 石灰 黄色 良好	吉澤 1285	外面形
104	土鷹鷹 坪	口端部-体幅 端片	(13.4) — (2.1)	ナデ	ナデ	ナデ	— —	2.575(1) \rightarrow 小黄褐色	白色、黑色斑子 良好	吉澤 一信	内外通透形
105	土鷹鷹 坪	口端部-体幅 端片	(14.2) — (3.1)	ナデ \rightarrow ナデ ミガキ	ナデ ミガキ	ナデ ミガキ	— —	2.575(1) 黄褐色	白色、黑色斑子 良好	吉澤 一信	内外通透形
106	土鷹鷹 坪	15%	(15.0) — (3.8)	ナデ	ナデ	ナデ	— —	2.575(1) 黄褐色	黑色斑子 良好	吉澤 一信	内外通透形
107	土鷹鷹 坪	口端部-体幅 端片	(10.4) — (2.1)	ナデ	ナデ	ナデ	— —	2.575(1) 黑褐色	白色斑子 良好	吉澤 1277	内外通透形
108	土鷹鷹 坪	口端部-体幅 端片	— (2.1)	ミガキ	ミガキ	ミガキ	— —	2.575(1) 小黄褐色	白色、黑色斑子 良好	吉澤 一信	内外通透形
109	土鷹鷹 坪	口端部-体幅 端片	— (2.1)	ミガキ	ミガキ	ミガキ	— —	2.575(1) 黄褐色	白色斑子 良好	吉澤 1211	内外通透形
110	土鷹鷹 坪	端片	— (2.1)	ナデ	ナデ	ナデ	— —	2.575(2) 黄褐色	白色斑子 良好	吉澤 一信	内外通透形
111	土鷹鷹 坪	高 端片	— (2.1)	不明	不明	—	— —	2.575(1) 黄褐色 10%RF / 黑色	白色斑子 良好	吉澤 1162	内外通透形
112	土鷹鷹 坪	高 端片	— (2.1)	ミガキ	ミガキ	ミガキ	— —	2.575(2) 黄褐色 10%RF / 黑色	白色斑子、白色斑子 良好	吉澤 1211	内外通透形
113	土鷹鷹 坪	口端部-体幅 端片	— (2.1)	ナデ	ナデ	ナデ	— —	2.575(3) 5% 黄褐色	白色、黑色斑子 良好	吉澤 一信	内外通透形
114	土鷹鷹 坪(底) 端片	端片	— (2.1)	ナデ	ナデ	ナデ	— —	2.575(3) 5% 黄褐色	白色、黑色斑子 良好	吉澤 784	内外通透形
115	土鷹鷹 坪	口端部-体幅 端片	(12.4) — (3.8)	ヘマチドリ	ヘマチドリ	ヘマチドリ	— —	2.575(4) 5% 黄褐色	白色斑子 良好	吉澤 1225	内外通透形
116	土鷹鷹 坪	口端部-体幅 端片	(12.4) — (3.8)	ヘマチドリ	ヘマチドリ	ヘマチドリ	— —	2.575(4) 5% 黄褐色	白色、黑色斑子 良好	吉澤 1274	内外通透形
117	土鷹鷹 坪	高 端片	— (2.1)	ナデ	ナデ	ナデ	— —	2.575(3) 黄褐色	黑色、黑色斑子 良好	吉澤 1258	内外通透形
118	土鷹鷹 坪	端片	— (2.1)	ナデ	ナデ	ナデ	— —	2.575(3) 黄褐色	白色斑子 良好	吉澤 一信	内外通透形
119	土鷹鷹 坪	端片	— (2.1)	ナデ	ナデ	ナデ	— —	2.575(3) 黄褐色	白色、黑色斑子 良好	吉澤 一信	内外通透形
120	土鷹鷹 坪	端片	— (2.1)	ナデ	ナデ	ナデ	— —	2.575(4) 5% 黄褐色	白色斑子 良好	吉澤 479	内外通透形
121	土鷹鷹 坪	口端部-体幅 端片	(12.0) — (3.5)	ナデ	ナデ	ナデ	— —	2.575(4) 5% 黄褐色	白色斑子、白色斑子 良好	吉澤 806	内外通透形
122	土鷹鷹 坪	端片	(12.4) — (3.5)	ナデ	ナデ	ナデ	— —	2.575(4) 5% 黄褐色	白色斑子 良好	吉澤 771, 795	内外通透形

第3 王 王士 王士 王士 王士 王士 王士 王士 王士	123 土锦锦 林	口被锦片 林	—	—	(3.0)	~7.978(3)~15.57(2) 黄褐色	~7.978(1) 白色	—	白色、黑色粒子 白色粒子、白粉	良好 良好	光滑 光滑	— —	内面内墨 花本 内面内墨
	124 土锦锦 林	口被锦片 林	—	—	(2.5)	~7.978(1) 黄褐色	~7.978(2) 黄褐色	—	白色粒子、白粉 白色粒子、白粉	良好 良好	光滑 光滑	— —	内面内墨 花本 内面内墨
	125 土锦锦 林	—	(17.4)	—	(10.8)	~7.978(4)~15.57(3) 黄褐色	~7.978(4)~15.57(3) 黄褐色	—	白色粒子、白粉 白色粒子、白粉	良好 良好	光滑 光滑	— —	内面内墨 花本 内面内墨
	126 土锦锦 林	口被锦~原那 锦片	(15.0)	—	(11.8)	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	—	白色粒子、白粉 白色粒子、白粉	良好 良好	光滑 光滑	— —	内面内墨 花本 内面内墨
	127 土锦锦 林	40%	(16.0)	9.0	15.5	~7.978(2)~15.57(3) 黄褐色	~7.978(2)~15.57(3) 黄褐色	—	白色粒子、白粉 白色粒子、白粉	良好 良好	光滑 光滑	— —	内面内墨 花本 内面内墨
	128 土锦锦 林	锦片~原那 锦片	—	—	(4.8)	~7.978(2)~15.57(3) 黄褐色	~7.978(2)~15.57(3) 黄褐色	—	白色粒子、白粉 白色粒子、白粉	良好 良好	光滑 光滑	— —	内面内墨 花本 内面内墨
	129 土锦锦 林	40%	—	(11.5)	(32.4)	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	—	白色粒子、白粉 白色粒子、白粉	良好 良好	光滑 光滑	— —	内面内墨 花本 内面内墨
	130 土锦锦 林	—	(7.8)	(2.4)	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	—	白色粒子、白粉 白色粒子、白粉	良好 良好	光滑 光滑	— —	花本 花本	
	131 土锦锦 林	—	(8.0)	—	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	—	白色粒子、白粉 白色粒子、白粉	良好 良好	光滑 光滑	— —	花本 花本	
	132 土锦锦 林	锦片~原那 锦片	—	—	7.8	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	—	白色粒子、白粉 白色粒子、白粉	良好 良好	光滑 光滑	— —	内面内墨 花本 内面内墨
第4 王 王士 王士 王士 王士 王士 王士 王士 王士 王士	133 土锦锦 林	锦片~原那 锦片	—	(8.7)	(8.8)	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	—	白色粒子、白粉 白色粒子、白粉	良好 良好	光滑 光滑	— —	花本 花本
	134 土锦锦 林	—	(8.0)	—	(8.0)	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	—	白色粒子、白粉 白色粒子、白粉	良好 良好	光滑 光滑	— —	花本 花本
	135 土锦锦 林	—	(8.0)	(5.0)	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	—	白色粒子、白粉 白色粒子、白粉	良好 良好	光滑 光滑	— —	花本 花本	
	136 土锦锦 林	—	(8.0)	(9.5)	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	—	白色粒子、白粉 白色粒子、白粉	良好 良好	光滑 光滑	— —	花本 花本	
	137 土锦锦 林	锦片	—	(8.8)	(6.9)	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	—	白色粒子、白粉 白色粒子、白粉	良好 良好	光滑 光滑	— —	花本 花本
	138 洪锦锦 片	90%	11.7	—	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	—	白色粒子、白粉 白色粒子、白粉	良好 良好	光滑 光滑	— —	花本 花本	
	139 洪锦锦 片	10%	—	(5.6)	(4.2)	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	—	白色粒子、白粉 白色粒子、白粉	良好 良好	光滑 光滑	— —	外圈锦条纹 花本
	140 洪锦锦 片	45%	—	—	(5.6)	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	—	白色粒子、白粉 白色粒子、白粉	良好 良好	光滑 光滑	— —	内面内墨 花本 内面内墨
	141 洪锦锦 片	—	—	(5.6)	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	—	白色粒子、白粉 白色粒子、白粉	良好 良好	光滑 光滑	— —	自然物 自然物	
	142 洪锦锦 片	—	—	(5.6)	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	—	白色粒子、白粉 白色粒子、白粉	良好 良好	光滑 光滑	— —	内面内墨 花本 内面内墨	
第5 王 王士 王士 王士 王士 王士 王士 王士 王士 王士	143 洪锦锦 片	—	—	(5.6)	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	—	白色粒子、白粉 白色粒子、白粉	良好 良好	光滑 光滑	— —	外圈花本 (横文) 外圈花本	
	144 洪锦锦 片	—	—	(1.8)	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	—	白色粒子、白粉 白色粒子、白粉	良好 良好	光滑 光滑	— —	横纹横 横纹横	
	145 洪锦锦 片	45%	—	—	(0.3)	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	—	白色粒子、白粉 白色粒子、白粉	良好 良好	光滑 光滑	— —	花本 花本
	146 土锦锦 片	45%	—	—	(2.2)	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	—	白色粒子、白粉 白色粒子、白粉	良好 良好	光滑 光滑	— —	内面内墨 花本 内面内墨
	147 土锦锦 片	—	—	(0.8)	(2.0)	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	—	白色粒子、白粉 白色粒子、白粉	良好 良好	光滑 光滑	— —	内面内墨 花本 内面内墨
	148 土锦锦 片	(12.5)	—	(1.4)	—	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	—	白色粒子、白粉 白色粒子、白粉	良好 良好	光滑 光滑	— —	内面内墨 花本 内面内墨
	149 土锦锦 片	45%	—	—	(5.1)	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	—	白色粒子、白粉 白色粒子、白粉	良好 良好	光滑 光滑	— —	花本 花本
	150 土锦锦 片	—	—	(5.4)	(4.2)	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	—	白色粒子、白粉 白色粒子、白粉	良好 良好	光滑 光滑	— —	内面内墨 花本 内面内墨
	151 石锦锦 石	—	—	(6.4)	(6.2)	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	—	白色粒子、白粉 白色粒子、白粉	良好 良好	光滑 光滑	— —	内面内墨 花本 内面内墨
	152 大锦锦 片	—	—	(1.4)	(1.4)	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	—	白色粒子、白粉 白色粒子、白粉	良好 良好	光滑 光滑	— —	重量 77/10 # 安山田
	153 大锦锦 片	45%	—	(11.1)	(9.8)	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	~7.978(1)~15.57(3) 黄褐色	—	白色粒子、白粉 白色粒子、白粉	良好 良好	光滑 光滑	— —	—

第4章 総括

(1) 窪み状地形の堅穴建物跡の可能性

調査成果を総括する前に、今回の調査で発見された窪み状地形について堅穴建物跡である可能性を示し、以下では自然地形ではなく、遺構として取り扱うこととする。

窪み状地形は調査区の西半分、北西から南東にかけての範囲に分布していた。当初、旧河道であることを想定し、河道の横断にあたるA-A' 断面作図用のベルトを設定したが（図9）、C-C' 断面で、窪みは止まり、南東に進むにつれて徐々に底面の標高が高くなっていく傾向が読み取れた（図12: C-C' 断面）。これによって当該地形が流路の痕跡ではなく、窪み状を呈することが判明した。

一方、基本層序の8層を精査している時点で調査区全体に分布する傾向がみられた古墳時代終末期の遺物が、窪み状地形内での精査が進むにつれ、その中に濃密に分布する傾向が顕在化してきた（図15）。また、窪み状地形内で特に遺物が集中する北側の縁辺に竈跡が発見され、窪み状地形内が堅穴建物跡である可能性が高まった。図16のA-A' の範囲とB-B' の範囲の遺物垂直分布図をみると、それぞれ建物跡の東壁の立ち上がりと北壁の立ち上がりと考えられる断面形状が見て取れる。特に北壁の立ち上がりについては、カマド跡の位置とも一致する。また、図14 土層断面A-A' は13層と14層に建物跡の立ち上がりを思わせる形状がみてとれる。

窪み状地形内で最も遺物を多く包含するのは基本土層中の9層である。9層底面から高坏が正位と逆位の状態で発見された事例もある。当該層には炭化した植物遺存体も堆積していたが、その分布も竈跡の周辺を中心として、遺物密集地と概ね一致していた。9層底面を掘削した土坑（3号土坑）もあり（図11: 3号土坑）、これが堅穴建物跡の底面である可能性を想定したが、遺物は10層から6層にかけても包含される点や前記のとおり13層と14層に建物跡の立ち上がりを思わせる形状がみてとれる点が、その仮説と整合しない。10層に遺物が希薄な点と含め、今後の検討課題となつた。調査区北壁で確認した堅穴建物跡では炭化した植物遺存体層が2層確認できており、これは窪み状地形内の9層と15層の関係に類似している。

また、堅穴建物跡としてではなく、窪み状地形として調査せざるをえなかった背景としては、砂とシルトを中心とした堆積の中、出水が著しく平面プランの確認が困難であったことや、A-A' 断面にみられるように埋没過程が毎回底面を破壊しながらの水成堆積の繰り返しによってなつておらず、遺構の形状が損壊していた可能性が考えられる。これは、調査手法上の課題となつただけでなく、周辺の地形環境の中での遺跡の選地など遺跡形成にかかわる課題の検討の重要性を示すものである。

(2) 調査成果の概要と遺跡立地の特徴

以上の検討を踏まえ改めて今回の調査成果をまとめると、以下の通りである。古墳時代終末期の所産と考えられる堅穴建物跡2軒（窪み状地形を含む）、土坑4基が発見された。

堆積層はいずれも砂層やシルト層で、ラミナ構造や下層を破壊し、ブロック状に取り込んだ堆積状況が各層に認められるように、水成の堆積層が累積する環境にあったようである。現に調査区東側では遺物包含層や基本層序にみられるような、それ以下の堆積層は存在せず、代わりに砂礫層が深くまで堆積していた。遺跡自体が北から南に流れる河川の隣接地に立地していたことがわかる。第2章に述べたように、上三條河原遺跡周辺の甲府盆地中央部では、小河川が北から南に流れ、その間に微高地が展開する傾向がある。微高地も南北方向に形成され、その上に遺跡が形成される。上三條河原遺跡の周辺では西に小井川遺跡（中世）、東に上窪遺跡（平安時代）等が知られていたが、上三條河原遺跡の発見は、その間の地形情報と遺跡分布の一端を明らかにすることとなつた。今後、隣接地での埋蔵文化財包蔵地の把握と保護に努め、当該地域の遺跡形成の実態に係る情報の蓄積を継続していくことが肝要である。

図 31 遺構写真図版①



1 カマド跡周辺遺物出土状況



2 調査地周辺の様子



3 積穴建物跡土層断面



4 壊み状地形内の有機物堆積状況(カマド跡周辺)



5 カマド跡周辺遺物出土状況



6 遺構外(8層)からの遺物出土状況



7 カマド跡周辺の土層断面



8 調査風景

図32 遺構写真図版②



9 窪み状地形



10 遺構外(8層)からの遺物出土状況



11 調査区全景



12 調査区全景



13 調査風景



14 遺構外(8層)からの遺物出土状況



15 調査区全景



16 窪み状地形

図33 遺構写真図版③

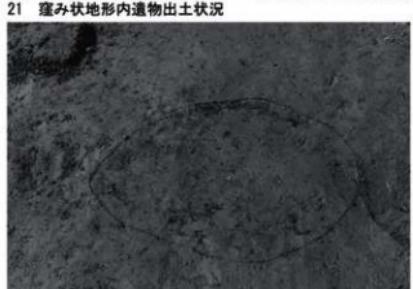


図34 造構写真図版④



25 3号土坑上面検出時



26 カマド跡記録作業



27 造構外(8層) 遺物出土状況



28 ノッチタンクを使用した排水作業



29 調査風景



30 調査風景



31 4号土坑木材出土状況



32 事務所・休憩所等設置状況

図35 遺物写真図版①



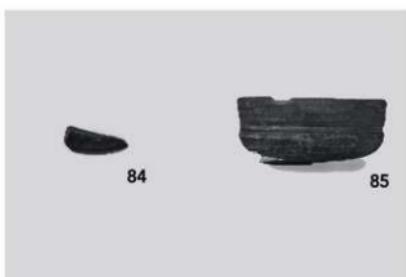
25



79



77



84

85



22



31



30



29

図36 遺物写真図版②



55



54



45



44



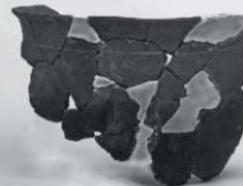
53



74



52



54

図37 遺物写真図版③



63



64



65



138



70

69



120



97



127

図38 遺物写真図版④

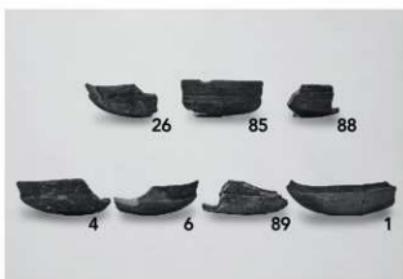
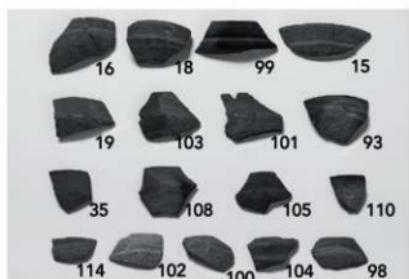
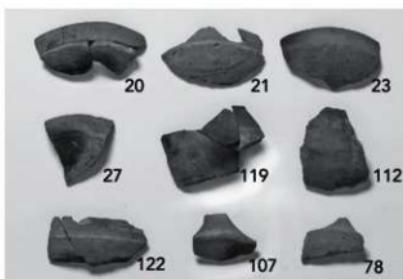
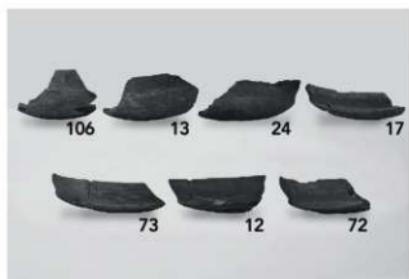
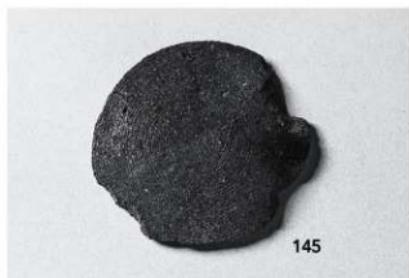


図39 遺物写真図版⑤

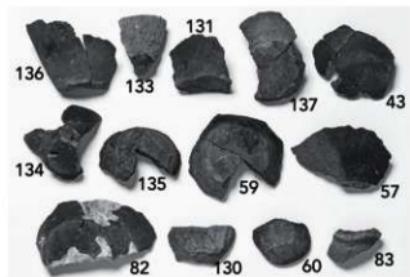
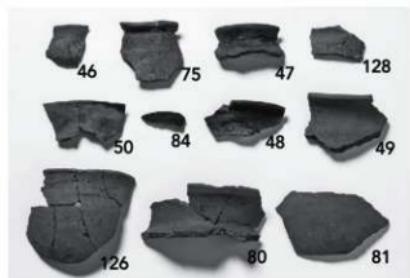
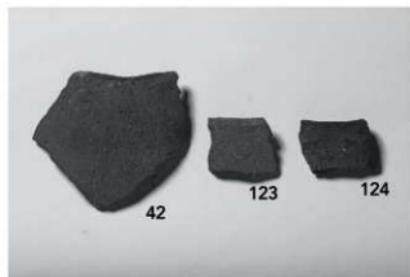
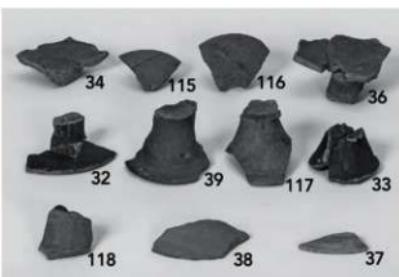
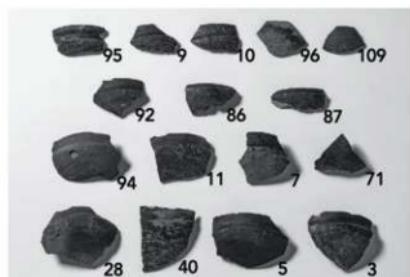
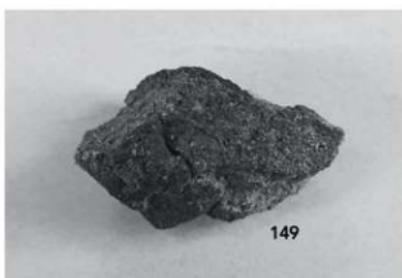
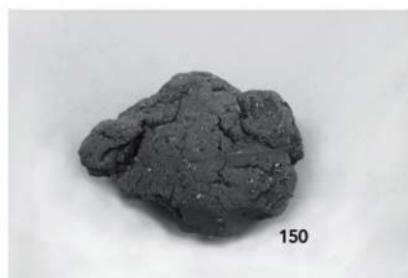
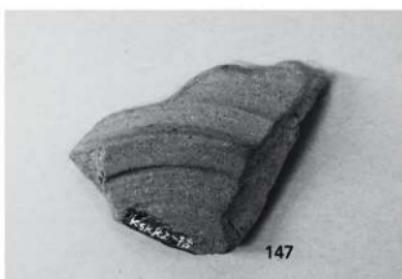
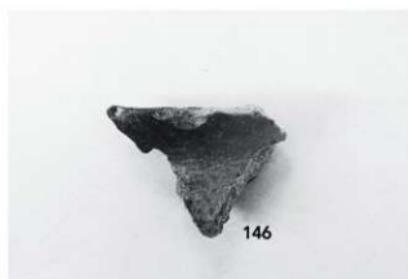
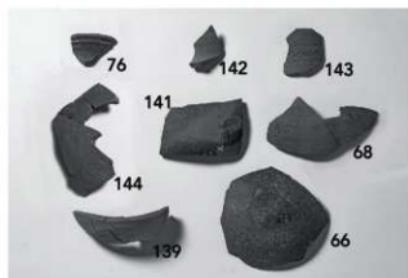


図40 遺物写真図版⑥



報告書抄録								
ふりがな	かみさんじょうかわらいせき							
書名	上三條河原遺跡							
副書名	中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事に伴う発掘調査報告書							
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第336集							
編著者名	上野桜							
発行者	山梨県・東海旅客鉄道株式会社							
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター							
所在地	〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923 TEL 055-266-3016							
発行日	2022年3月18日							
ふりがな 所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
かみさんじょう かわらいせき 上三條河原遺跡	山梨県中央市 上三條字河原 252-2, 946-3	19214		35° 60' 48"	138° 52' 73"	20201005~20201130	660m ²	鉄道
	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
	散布地	古墳	竪穴建物、土坑			古墳時代の土器、石器等	古墳時代遺跡希薄地域において竪穴建物跡を検出。	
要約	<p>本調査区域では、古墳時代終末期の竪穴建物跡が少なくとも2軒確認された。調査区内の東側に南北に流れる旧可道がある他、遺構覆土や地山が水成堆積によるシルトや細粒砂よりなることから、増水に伴って、浸水しやすい環境であったことが想定される。</p> <p>上三條河原遺跡周辺においては古墳時代終末期の遺跡は希薄でもあり、当該地域における古墳時代終末期の遺跡の立地や集落景観の考察に資する事例の一つになると考えられる。</p>							

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第336集

上三條河原遺跡

中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事に伴う発掘調査報告書

2022年3月11日 印刷

2022年3月18日 発行

編集 山梨県埋蔵文化財センター

山梨県甲府市下曾根町923

TEL 055-266-3016

maizou-bnk@pref.yamanashi.lg.jp

発行 山梨県・東海旅客鉄道株式会社

印刷 青柳印刷株式会社

